

Point
1

安心できる
激安サーバーの
見抜き方

Point
2

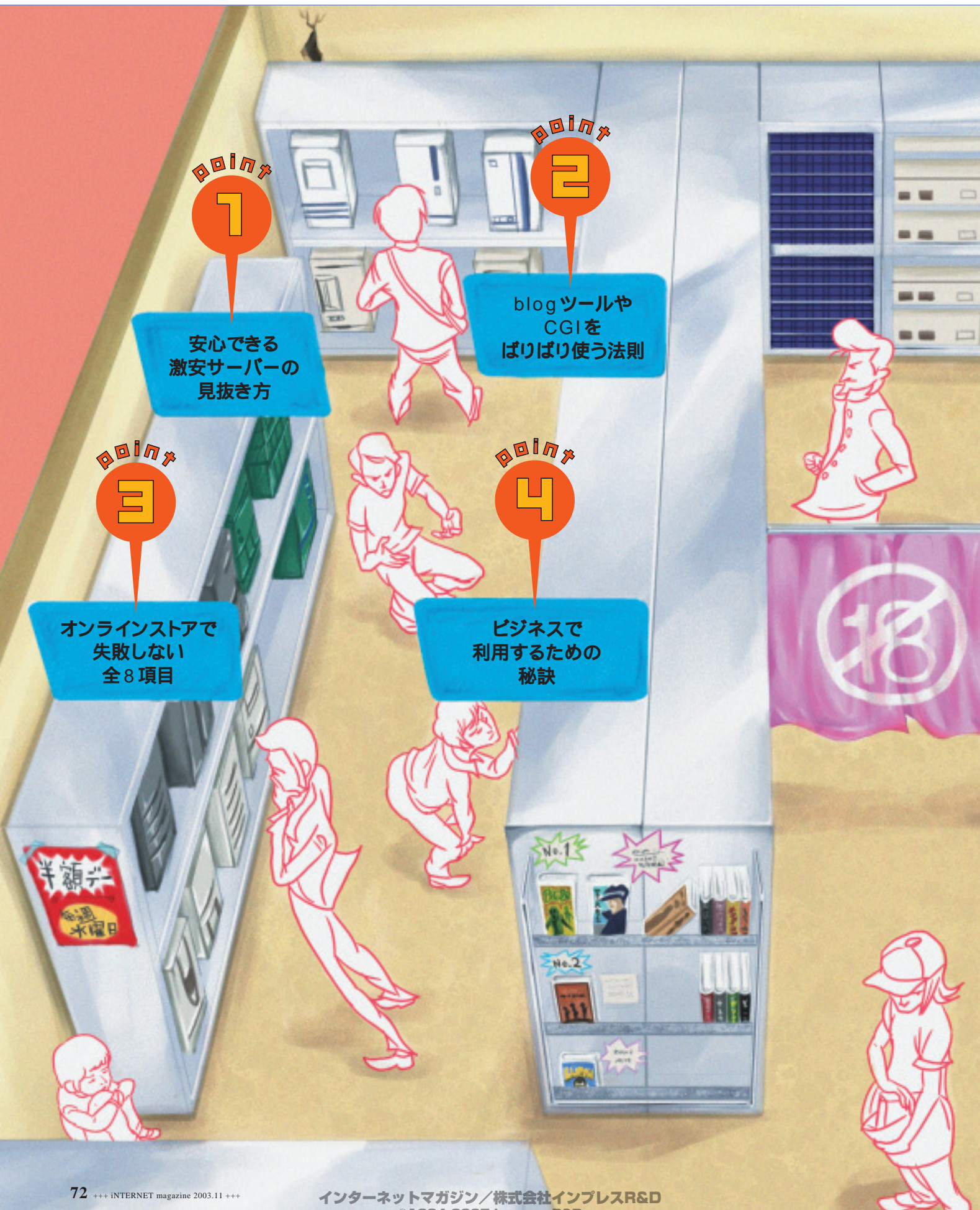
blogツールや
CGIを
ばりばり使う法則

Point
3

オンラインストアで
失敗しない
全8項目

Point
4

ビジネスで
利用するための
秘訣





レンタルサーバー選びの極意

[特集1]

誰も教えてくれなかった重要チェック項目はこれだ!

レンタルサーバーサービスや事業者は非常に多く、どこを選んだらよいか経験者でも迷うところだ。ある程度技術的な専門知識も必要なので、初心者ならなおのこと迷うだろう。いったい何を選択の決め手にすればよいのだろうか。利用料金の安さなのか、はたして事業者の知名度なのか……。失敗や後悔をしないレンタルサーバー選びの極意を、初心者を始めとして経験者にもご披露しよう。

text : 鬼頭一好 (P74 ~ 81)
青山則夫 (P90 ~ 93)
梅垣まさひろ (P94 ~ 97)
岡田大助 (P86 ~ 89)
編集部
illustr : はぎわらけい



よくわからなかった用語もばっちり！ レンタルサーバーの 基礎をおさえよう

インターネット接続プロバイダーに加入すると、無料で使えるホームページスペースが提供される。そのなかで、なぜ有料のレンタルサーバー()を使うのか。それは、「快適さと自由度が高い」からだろう。プロバイダーだと、利用できるハードディスクスペース()がかぎられるほか、CGIプログラム()が使えないなど、さまざまな制約がある。

そうした制約で一番大きいのは独自ドメイン名()が使えないことだ。プロバイダーのホームページスペースでは、URLが長くなりがちで憶えづらい。商用利用では致命的だ。独自ドメイン名を取得すれば、ウェブサイトのURLだけではなく、プロバイダーやレンタルサーバーサービスを変えても、ずっと同じメールアドレスを使い続けられるメリットもある。

3種類のタイプに制約の差

しかし、レンタルサーバーも制約の度合いで大きく3種類()に分かれている。も

っとも安価な「共用型」は、1つのサーバーマシンのCPUやメモリーといった資源(リソース)を複数のユーザーで共用する。ディスクスペースだけではなく、ウェブサーバーやCGIに使うPerl、PHPなどの基本的な設定もユーザーが共有するので、ユーザーごとに変更できない。また、ルートアカウント(システムの管理者アカウント)の権限が与えられていないので、システムの設定を変更することも不可能になっている。このため、サーバーにユーザーがアプリケーションをインストールすることもできないのだ。

これに対して「仮想専用(パーチャル)型」は、共用型と同様に1台のサーバーハードウェアを共用するが、仮想的に独立したOSがユーザーごとに割り当てられている。そのため、アプリケーションのインストールが可能で、各ユーザーがあたかも管理者のように運用できるのが特徴だ。ただし、自由度が増すので、そのぶん共用型よりコストは高い。共用型と仮想専用型で共通しているのは、複数人で1台のサーバー

マシンを共用していることだ。このため、快適さはサーバーマシンとバックボーン()の接続容量や、何人で共用しているかによって変わる。基本的に共用人数が多いほどサーバーマシンの動作やウェブサイトの表示が遅くなり、快適さは損なわれる。また、人数に関係なくデータ転送量()が多量に発生しているウェブサイトが共用サーバー内にあれば、ほかのユーザーの快適さが損なわれる。

専用型は制約がないぶん高コスト

こうした、快適さと自由度に制約がかからないのがもう1種類の「専用型」だ。プロバイダーなどのバックボーンに直結されたサーバーマシン1台を独占して利用する。ただし、もっともコストは高くサーバーマシンやOSの選択、セキュリティーパッチのインストール、各種の環境設定などを契約者がしなければならないので、技術的な知識が求められるうえに運用管理の労力もある程度かけなければならない。

レンタルサーバー

ウェブサーバーやメールサーバーの機能を含めたインターネットに接続された貸し出し用のサーバーマシンのこと。マシンをまるごと貸す場合と、ハードディスクの一部を貸す場合がある。「ホスティング」などとも呼ばれるが、「ホスティング」は、NTTの登録商標となっている。

CGIプログラム

サーバー側で計算やプログラムを処理して、その結果をブラウザに表示させるプログラムで、掲示板やチャットなどに使われる。CGIを記述する言語のうちで普及しているのがPerlだ。動的なページをサーバーが外部CGIプログラムを呼び出して生成する。このほかに、PHPという言語も人気を集めている。ウェブページを作成する目的で開発された言語で、HTML文書の中に埋め込む形で記述する。動的なページを作成するのが比較的簡単で手間がかからないため、取り組みやすい。最近評判の高いRubyという言語もPHPと同様に、ウェブページの作成に適したものだ。

ハードディスクスペース

一般的にはホームページ用のHTMLファイルを保存する場所を指す。ホームページスペースやウェブスペースなどとも言う。容量は個人用で10～100Mバイトくらい、画像を多用したり商用だったりすれば200Mバイト以上が推奨される。ウェブ用とメール用を個別に容量表示する場合と、合算表示する場合がある。

独自ドメイン名

独自ドメインを取得するということは、図1の赤い枠線の部分を取得した任意の文字にできるということだ。ドメイン名は世界で唯一つしか存在しないので、取得すればインターネット接続プロバイダーが変わっても使い続けることができる。また事業者によってはサブドメインのみ任意の文字列にできるところもある。ドメインは、「レジストリ」という機関が管理して

いるので、ドメイン名を取得するにはレジストリへドメイン名を登録しなければならない(図2)。この登録は、レジストリが管理しているデータベースに直接アクセスできる「レジストラ」という登録専門業者を通じて行う。このほか「登録代行業者」を通じても行えるが、代行業者はレジストリのデータベースにアクセスすることは許されていないので、あくまでもレジストラへの登録申請をユーザーの代わりに行うという意味だ。このため、ユーザーがレジストラに登録を申請

するよりも、代行業者へ登録を申請したほうがドメイン名の取得に時間がかかることが多い。ドメイン名を取得したらDNSサーバー(ドメイン名とグローバルIPアドレスを対応づけるサーバー)にドメイン名とユーザーが利用するサーバーのIPアドレスを登録しなければならない。その一方で、レジストリに対してどのDNSサーバーを

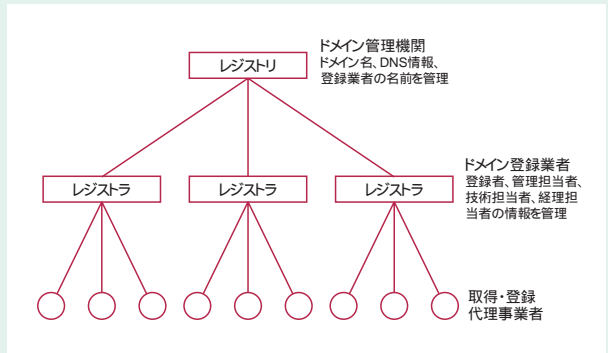
ユーザーが利用するかというDNSサーバーの情報を登録しなければならない。多くのレンタルサーバーサービス事業者はドメイン名の登録を代行している。こうした登録代行も手掛けている事業者でドメイン名を取得してレンタルサーバーを利用すれば、DNSサーバーへの情報登録などは事業者が行ってくれる。そ

のため、いつから利用したいかその日にちを事業者に伝えておけばいい。しかし、DNSサーバーに登録したドメイン情報が世界中のサーバーに行き渡るまでには数日から数週間かかる。また、ドメイン名の取得にかかる料金や、取得できるドメイン名は事業者によってまちまちだ。

図1: 独自ドメイン名とサブドメイン



図2: ドメイン名の登録と管理



3種類のレンタルサーバー

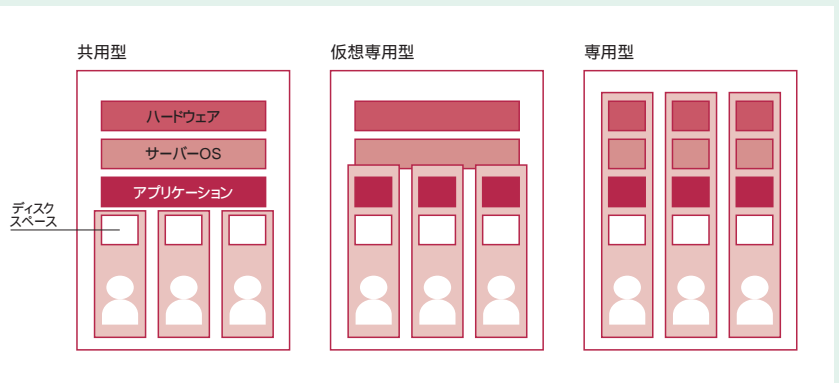
表のように大きく3種類に分かれる。快適さや自由度が高まるほどコスト(利用料金など)がかさむうえ、技術的な知識が必要になってくる。事業者はこれらのサーバーを自社内かデータセンターに設置する。データセンターはネットワーク回線やサーバー運用環境などを提供し、サーバーを預かるハウジングやコロケーションと呼ぶ施設の中で、災害などにも備えている。事業者でなくても企業が直接ハウジングできるが、サーバーマシンなどの機器はユーザーが揃えなければならない。

3種類の特徴

種類	共用	仮想専用	専用
ハードウェアディスク容量制限	あり	あり	なし
リソースの制限	あり	あり	原則なし
CGI、PHPの使用	可能だが制限あり	可能だが制限あり	可能
アプリケーションのインストール	不可能	可能	可能
ルート権限	なし	あり	あり
利用可能までの期間	短い	短い	長い
運営コスト	低い	→	高い
快適性や自由度	低い	→	高い

バックボーン

ネットワーク同士を結ぶ大容量の基幹回線のことだ。レンタルサーバー事業者が接続している上位プロバイダーの回線容量を「10Gbpsに接続」などと表現している事業者がいるが、これは意味がない。接続している上位プロバイダーと事業者を結ぶ回線の容量が重要になるので「100Mbpsで接続」などの表現が正しい。そして、その接続回線を専用で使っていないければこれも意味はない。さらに、その専用回線に何台のサーバーが接続されているかといったことが重要になるが、事業者の多くは情報を公開していない。



データ転送量

サーバーから呼び出されるデータの量を転送量という。ウェブサイトアクセスがあったり、メールを送信したり、ファイルをダウンロードしたりしたときにサーバーから流れるデータ量などを指すことが多い。ウェブサイトアクセスが集中するほど、より多くのデータがサーバーから呼び出さ

れるので、より広い回線の帯域幅が必要になってくる。そのため、ネットワークやサーバーに著しい負荷がかからないように、月間のデータ転送量に応じて課金するプランや、月間の利用帯域幅を制限している事業者もある。しかし、どういったデータを対象にして制限を課しているかは事業者によって違う。



「質」と「機能」を見極める!

失敗しないレンタルサーバー選びの新基軸

これまでの常識を取り払え

選択の主軸を「事業者の質」に置く

利用者が広がってきたレンタルサーバーだが、サービス提供事業者は大手から再販業者の激安サーバーまで限りなくあり、信用力や質もさまざまなので選択するのは非常に難しい。

次々に乗り換える常識

「これまでにいくつものレンタルサーバーを利用してきたが、失敗したくないなら大手を選んで、もし気に入らなかったら

次々に乗り換えて自分に合ったサービスを選ぶしかない」と、あるベテランのシステムコンサルティング会社の社長は語る。

たしかに、1つの良策といえる。しかし、レンタルサーバーの乗り換えはさまざまな手間暇がかかる。本当にそれが最良の策なのだろうか。

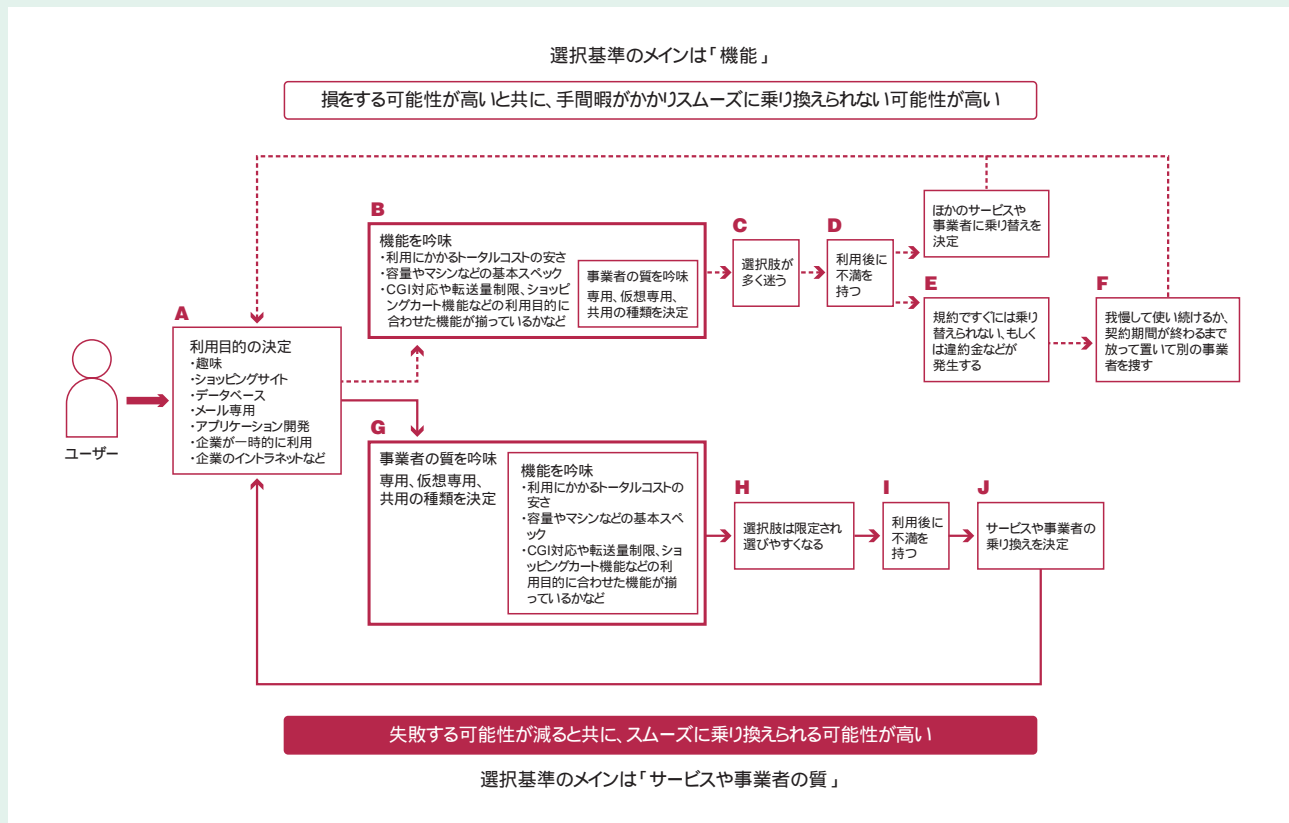
機能と料金を決め手にすると損

「レンタルサーバーの選び方」と言えば、

多くの人は「掲示板や知り合いからよさそうなサービスを聞く」「利用目的をしっかりと決めたいので、それに合ったサービスの中で安いところを選ぶ。サポートも重要」と言う。

つまり、サービスの内容と利用コストを中心に選択する考え方。こうしたことを実践していながらも、「なかなかいいレンタルサーバーサービスに巡り会えない」という声は非常に多い。

機能よりも事業者を選択の軸に置く



左下の図を見てほしい。これまでのこうした選択のやり方は、B～Fのように「機能があるかないか」を重視していたのではない。目的を決めたら、その目的に合わせたディスク容量やマシンのスペック、料金、CGIが利用可能かどうか、ショッピングカート機能はあるかないかなどを中心に探していく。競争が激化しているなか、ある程度こうした機能は多くの事業者が提供しているので、実際に事業者を選択する際には迷うだろう。

そこで、機能の中身までよく吟味せずに最終的な決め手を「料金の安さ」にしているのではないだろうか。そして、実際に利用してみると「こんなはずではなかった」と後悔してはいないだろうか。

「後悔したら乗り換える」というのは1つの正しい方法だが、機能面を重視して選択すると、さまざまな契約の縛りを見落としがちだ。そして、この縛りによっていざ乗り換えようと考えてもすぐには乗り換えられなかったり、中途解約や退会に伴う予想しなかった出費がかかったりする可能

性が非常に高い。結果的にコストパフォーマンスが低くなってしまいうけだ。

ユーザーではどうにもならない質

そこで、こうした選択の方法ではなく、図のG～Jのように「サービスや事業者の質」を重視した選択を提案したい。事業者が利用している回線の品質やサーバーの環境、契約の内容、サポート力などは、自分ではどうしようもない。目的を決めたら、こうした質の部分を判断して、ある程度事業者を限定してしまう。そのうえで、機能を吟味していく方法だ。契約内容などを十分にチェックしているので、いざ気に入らなくなってもスケジュールを把握して乗り換えがスムーズに行えるし、本来必要としない余計な出費を払うリスクを減らせる。

事前の苦勞が成功を生む

そこで、「サービスや事業者の質（表A）」と「機能（表B）」についてのチェックポイントを80ページに挙げた。どちらか一方だけをチェックしても駄目だ。かなりの数にはな

るが、本当に失敗したくないならば、利用目的に合わせてこれらを十分に吟味してほしい。表Aの項目は、なかなか事業者が情報を公開したくない項目ばかりだ。この項目の詳細を次に説明するが、実際に選択する際にはこの項目の情報を事業者のウェブサイトで探し、それでも見つからなかったときや、わからなかったときには電話や電子メールなど事業者ごとに決められた方法でかならず問い合わせよう。それに対する回答のレスポンスや内容によっても、事業者のサポート力や質が十分に判断できる。表Bについても同様に情報を探したあとにわからないことは積極的に問い合わせよう。表Bの項目についても、より目的に絞った選択の方法を82ページから説明する。なお、表A、Bの項目は問い合わせが簡単になるようにインターネットマガジンのウェブサイト [URL](http://internet.impress.co.jp/im/200311rs/) に掲載してあるので利用してほしい。

[URL](http://internet.impress.co.jp/im/200311rs/) <http://internet.impress.co.jp/im/200311rs/>

知りにくい情報はどうするか

サーバーの環境を吟味する方法

事業者がどのくらいの期間サービスを展開しているかは質を見抜く初歩とも言える。会社名や住所、連絡先などの会社概要をまったくウェブサイトに掲載していないような事業者はまず論外だ。

一般には長期間展開していれば、それだけ実績も経験もあるので良好なサービスを期待できると言える。ただし、そのなかには期間が長くても、昔は評判がきわめて悪かったが、ユーザーにたたかれ続けた結果、現在は良好なサービスを提供している事業者もあれば、以前は良好なサービスを展開していたが、それゆえに人気が出て予想以上にユーザーが殺到した結果、対応しきれずに現在はサービスの質が悪化して

いる事業者などもある。

一番知りたいことがわからない

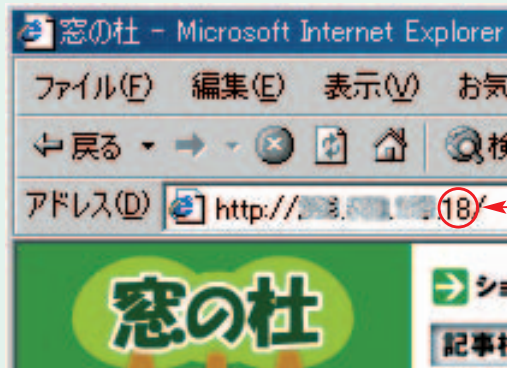
こうした現在の品質を見るうえでは、80ページの表Aの2～11が参考になるが、これらはなかなか事業者が公開しない情報だ。特に仮想専用と共用サーバーを利用している場合には、自分が利用しているサーバーを何人が使っているか、バックボーンにつながっている容量がどれくらいかによってパフォーマンスが変わってくるので、誰もが気になる点だ。また、こうした数値を手で見て、事前に満足いく内容だったとして利用を始めても、同居しているほかのユーザーの1人でも高い負荷をサーバーに

かけたり、すごいトラフィックを稼ぐサイトだったりすれば、全体のパフォーマンスは落ちてしまう。著しくパフォーマンスが落ちたら事業者に相談してみるのがいいだろう。

近いIPアドレスを調べてみる

ユーザー側で試みることができるのは、事業者から与えられた自分が使っているIPアドレスに近いIPアドレスにアクセスして、どのようなサイトなのかを調べてみる方法がある。たとえば、自分のIPアドレスが「XXX.XXX.XXX.19」の場合、最後の数値（次ページの画像のA）を増やしたり減らしたりして、そのIPアドレスをブラウザーに直接打ち込んで表示させる。そうす

ると、同じネットワークを利用しているウェブサーバーのページが表示される場合が多いので、トラフィックが高いウェブサイトかどうかその内容を見る手がかりにはなる。ただし、自分が使っている共用サーバーとはまったく違う別のサーバーを表示する場合もあるので、あくまでも参考程度にとどめたい。



A
この数値を増やしたり減らしたりする

契約の縛りが後悔の火種 申し込みと解約の方法を熟知する

ビジネスとして展開している事業者は、当然いったん利用してくれたユーザーを手放したくない。その中には、自分のサービスに絶対の自信を持っているからこそ使い続けてほしいという事業者もいれば、単純に利用料金を稼ぐためという事業者もあるだろう。いずれにせよ、事業者の中には巧妙な契約の縛りを課しているところも少なくはない。

割引制度を疑ってみる

そこで、80ページ表Aの12～22は要注意だ。初期費用を無料にするなど、新規申し込みや乗り換えキャンペーンを展開している事業者は多い。もちろん、こうしたキャンペーンの時期を狙って申し込みの多いだろう。しかし、こうした制度が果たして本当に得なのかをよく吟味する必要がある。

たとえば、新規加入について年中「初期費用無料キャンペーン」を行っている事業者がいるが、こうした事業者は単純に「キャンペーン」という言葉を使っているだけで、初期費用を徴収していない事業者と同様だと考えていい。初期費用を徴収しない事業者では「CGIが使えない」「CGI利用はオプション」などの制限があったり、有料オプションの機能が多かつたりすることがあるので、「キャンペーン」という言葉に踊らされ

ずに、内容を確認して総合的に得かどうかを見る必要がある。

さらに、「最初の10日間はお試し期間でキャンセル可能」「最初の1か月は利用料金が無料」などとして、お試し期間を設けていることも多い。こうした事業者は自分のサービスに自信を持っていると判断できる。しかし、ここで気を付けなければいけないのは、試して気に入らなかった場合のキャンセルの方法だ。いつまでに、どのようにすればよいかを把握しておきたい。

また、「お試し期間」と言っても、事実上お試し期間を利用し始めたときから利用契約を締結したことになるケースが多いので、初期費用を払っている場合は期間中にキャンセルしても返金されないことがほとんどだ。

トラブルが多い解約方法

一方で、利用料金は基本的に長期間の利用契約を結びと割引かれることが多い。そのため、事業者は「最低利用期間」を3か月や6か月、1年などと設定しており、ほとんどの場合はこの期間ごとに利用料金を一括で支払う方法を採用している。こうした期間内にもし中途解約・退会すると、利用期間がもし残っていたとしてもその分の利用料金は返金されないことがほとんど

だ。

つまり、利用を申し込む際には途中で解約・退会することも念頭に置いたうえで考えなければならない。これは、もっともトラブルの多い部分でもある。長期間利用すれば割引になるからと言って年間契約や複数年契約などにすると、リスクが高まる可能性があるのだ。

クレジットカードや金融機関の自動引き落としでの支払いでは、ユーザーに何の告知もないまま契約が自動更新されることが少なくない。そのため、自分の契約期間がいつまでなのかをいついっしょに忘れがちで、気が付かないうちに2年目の契約を結んでいる場合がある。それから乗り換えなどで退会しようとしても、残りの契約期間の利用料金が返金されなかったり、違約金を取られるケースもあるのだ(右図のケースA)。

また、契約終了期日を憶えていても、「解約・退会の申請は契約期間の2か月前までに申請すること」と定めている場合があるので、そのとおりに退会を申請しないとやはり契約を続けるしかなくなることもある(右図のケースB)。ちょうど、賃貸でアパートやマンションを借りているときの更新の手続きと似ている。

さらに、退会の申請を事業者が受け取った時点で即サービスが停止(ウェブサイトの

データ削除)されることもあるので、どのタイミングでサービスが停止するのも確認しておくべきだ。

このほかにも、申し込み時にはオンラインで簡単に完結した場合でも、退会時には「郵送のみ」として手段を限定したり手続き

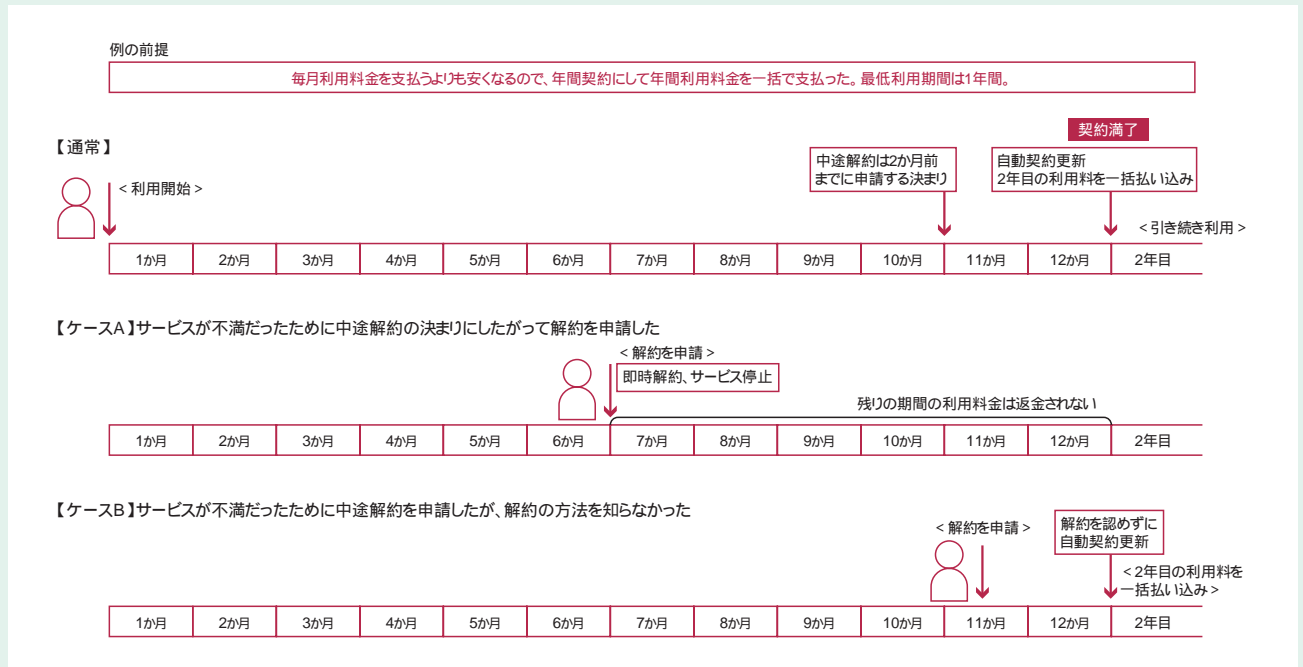
が面倒だったりすることもある。

乗り換えだけでは済まない

こうしたことは、何も事業者を乗り換えるときだけではない。「どのような手続きをいつどのように行えばいいか、そのための

費用はかかるか」といったことは、同一事業者のほかのサービス(グレードダウン、グレードアップ)に移行する際にも確認する必要がある。とにかく、こうした移行や解約の内容調査を後回しにしてはいけない。申し込むときにかならずチェックしよう。

》一番トラブルの多い解約の方法を見極める



最悪の場合は手放さなくてはならない

ドメインの名義と費用は最低限チェック

独自ドメインをすでに持っている場合は、そのドメイン名が利用可能かどうかを確認しなければならない。

もちろん、利用するのに手数料がかかることもあるので、レンタルサーバーの利用料金と合わせてトータルコストを考える必要がある。

倒産やサービス停止のリスクも

また、ドメインの新規取得をレンタルサーバー事業者が行う場合も多い。その費用を確認したり、他の事業者へ移行できたり

するかという内容は当然レンタルサーバーを利用する際の注意点と同じだ。

だが、もっとも注意したいのはこの場合にドメインの名義は誰になるのかという点だ。名義がユーザーではなく事業者の場合は、事業者が倒産したりサービスを停止したりすると、ドメインの更新手続きを行えずに最悪の場合だと手放さなければならないこともある。すでに取得していたドメインを使うときに事業者名義に変更を迫る業者もあるようだ。

通常ドメインを取得すると、名前や住所、

メールアドレスなどの個人情報が公開される。そのため、この情報を利用して大量にスパムメールが送られてくることもある。これをいやがり、わざと事業者名義にする向きもあるようだ。倒産などのリスクを考えると良策とは言い難い。

一方、共用サーバーの場合は独自ドメインが使えない代わりに、「(任意の文字).impress.co.jp」もしくは「impress.co.jp/(任意の文字)」のように事業者が用意したサブドメインやフォルダー名を利用することも多い。種類が豊富なところを選びたい。

これを押さえれば完璧 チェックシートで選び出せ

ここまで、以下の表Aの項目の重要ポイントを取り上げてきた。このチェックシートを利用して満足するサービスを選び出そう。もちろん、「質」だけではなく「機能」をチェックするのも忘れてはいけない。表Bについては、目的や用途に合わせて82ページから詳しく解説する。

》表A：事業者やサービスの質を見抜く

種類	チェック項目	内容
環境	1 サービス、事業の経過期間	会社設立もしくはサービスを開始してからどのくらい経過しているかを見る。長ければそれだけ実績があるので、信頼性に関して一応の目安になる。ただし、支持されているがゆえに常にキャパシティーいっぱいユーザーがいる可能性などがある。
	2 サーバーの設置場所	一般的に海外にあればハイスペックで格安とされるが、海外だけに物理的な回線経路が増えるので、接続している回線の容量を見なければ有利か不利かはわからない。また、海外なので事故などの対応が把握しにくい場合もある。一方、国内でも自社内に設置しているか、データセンターに設置しているかによって安全性が変わってくる。一般にデータセンターならば耐震性や消火設備、空調システム、無停電源装置の二重化、24時間365日の有人監視などの万が一の災害や電源トラブルに備えていると考えてよい。
	3 バックボーンとサーバーの接続容量	バックボーンの内線容量だけでは安定性を判断できないので、自分が利用するサーバーとバックボーンがどのくらいの容量で接続されているかを見なければならぬ。
	4 バックボーンにつながっているサーバー数	3が公開されていない場合は、この数値とバックボーンの内容がわかればだいたいの判断ができる。ただし、共有の場合はサーバー1台あたりのユーザー数(ヘビーユーザーの存在)によって変わってくる。
	5 専用サーバーの帯域保証の有無	専用のパフォーマンスは帯域によって左右される部分が多い。保証の内容も見極める。
	6 仮想専用と共用サーバー1台あたりの最大ユーザー数	この数値とバックボーンの内容がわかれば安定性や快適性がだいたいわかる。しかし、絶えず帯域を大きく使っているようなヘビーユーザーが1人でも共用していれば、パフォーマンスは下がる。
	7 アップ(ダウン)タイムの公表の有無	サーバーがダウンするときは機器や回線の障害、ユーザー利用の高負荷などが原因になることが多い。この数値を公表している事業者は「99.9%以上」としているところがほとんどだが、どのサーバーの数値なのか、どのような計算方法なのかといった内容も確認しなければいけない。
	8 サーバルームへの入退場制限	データセンターにサーバーが設置してあればおのずと制限されるが、自社内に設置してある場合は社員であっても制限をかけないと盗難や破壊、いたずらなどのリスクが高まるし、責任の所在が明らかではない。
	9 サーバーの二重化の有無	ビジネス利用など、より安全性、安定性を求めるならば必須だ。
	10 回線やサーバーの障害に関する情報の有無と方法	こうした「負の情報」でも適時に適切な方法で詳しく報告することがあたりまえだ。ウェブサイト公開することはもちろんのこと、会員向けにメールで報告することも必要だ。
	11 転送容量制限の有無	利用の仕方によって適切な転送量は変わるので一概には言えないが、気を付けなければいけないのは「無制限」としているところ。事実上「いくら使ってもよい」という意味で使っているところは少なく、「転送量制限の明確な数値を設定していない」という意味のほうが多い。ある一定の転送量を超えるとプラン変更を促されたり、制限をかけられたりすることがある。
契約	12 利用申し込みの方法	ウェブサイトを通じたオンラインや電子メール、郵送、電話などがある。資料請求後や本人確認を行うケースもある。また、決済手段がクレジットカードの場合などはオンラインで手続き完了するケースが多い。
	13 解約の申請方法と受け付け期間	「郵送でしか受け付けない」などと、利用申し込み時の方法とは別の方法に限定していることがある。また「解約の申請は解約したい日の2か月前に行う」などと期間を決めている場合があるので、解約を思い立ったときに即実行できないことがある。そのうえ、最低利用期間との兼ね合いで中途解約や退会をしなければならぬ(違約金や残存利用期間の利用料金の支払い義務が発生)ケースもある。
	14 試用期間の有無と制約	試用期間を設けている事業者は、サービスに自信を持っていると言える。ただし「試用期間中のキャンセルの方法」を必ず確認する。ユーザー側が自発的にキャンセルしなければそのまま自動的に正式契約になる場合が多い。また、「試用期間あり」としていても契約上は事実上「試用を申し込んだ日」から契約している場合は、請求書が送付されることがあり、入金日までにキャンセルしないとこれも正式契約になってしまうことがある。さらに「何日間はキャンセル可能」としている事業者でも、初期費用は返金されないことがある。
	15 初期費用の有無	初期費用を徴収しない場合は、CGIが利用できないなど制限が多いことがある。また、ほかのサービスプランに移行する際にその都度初期費用がかかるのがほとんどだ。
	16 キャンペーンの詳細な内容	キャンペーンを利用するうえでの制限事項などがどうかを確認する。たとえば、キャンペーンを利用すると長期間利用しなければならなくなる条件が付いていないかどうかだ。また「1か月利用無料キャンペーン」などの場合は、その期間の機能制限がないか、無料期間は最低利用期間に組み込まれるかどうかなども確認する。
	17 利用料金の支払い方法	クレジットカードや振り込み、コンビニ決済などその手段と、手数料などのコストも含めて確認する。
	18 利用料金の支払い単位	通常は、最低利用期間ごとの支払いが多く、長期間契約するほど利用料金を割り引いている事業者が多い。そうかといって、長期間契約して料金を前払いしたとしても、その期間内で中途解約や退会をした場合に残金が返金されなかったり、違約金を払わなければならないことがある。

	19	申し込んでから利用開始までの最短期間	これも事業者がサービスに自信を持っているかどうかを判断できる情報の1つだ。短期的に即利用したい場合などはこの情報がないとどうしようもない。乗り換えを考える際にもこの情報がなければスケジュールが立たない。
	20	最低利用期間の有無	最低契約期間とも言うが、13、18との兼ね合いでこれをきちんと把握していないと大きく損をする場合がある。
	21	サービスプランやコース変更の可否と手数料	同じ事業者のほかのサービスプランやコースへのデータの移行などがスムーズに行えるのか、変更の日数や方法、手数料などを確認する。
	22	他者のレンタルサーバーへの乗り換えの可否と内容	21と同様に他者への引越しができるかどうかを確認する。もちろん、退会することになるので、13とともにチェックする。また、乗り換えに関するサポートは事業者によって差が大きいので、まずは乗り換えについてどのくらい情報があるのかを事業者のウェブサイトを見るだけでもその差の感触がつかめる。
	サポート	23	サポートの有無と方法
	24	サポートの時間帯とレスポンス	23の方法によっても変わり、もちろん受け付け時間帯としては24時間対応が理想だが、事業者が提示している時間帯にかならずしも回答があるわけではない。また、回答が早くても回答の質が悪ければ意味はない。「24時間以内に必ず返答」などを謳っている事業者もあり、一見しっかりしているが、逆に言えば「回答の猶予が24時間ある」ということなので即時回答が期待できない場合もある。
ドメイン	25	独自ドメインの取得代行の有無	レンタルサーバー事業者が取得代行までやってくれれば手間が省ける。
	26	取得可能ドメインの種類	事業者によって利用できるドメインの種類は変わる。
	27	独自ドメインの費用	取得費用のほかに年間単位(ドメインによっては初年度のみ2年もある)で維持費を支払う。レンタルサーバーの利用料金と合わせて利用コストを考えなければならない。また、別途初期費用やDNS利用料金を徴収することもある。さらに、クレジットカードなど支払い方法によって割り引かれる場合もある。
	28	独自ドメイン取得時の名義は誰か(所有者の帰属)	取得したドメインがユーザーの名義か、事業者の名義かを確認する。事業者の名義の際は、他の事業者へスムーズに乗り換えられなかったり、事業者が倒産した場合などにドメインを手放さなければならなかったりするリスクがある。
	29	独自ドメイン移行の可否と費用	28のほかに、ほかの事業者へのドメインの移行を認めていない事業者があり、移行できても手数料を徴収する事業者もいる。
	30	複数ドメイン利用の可否	1つのサーバーで複数のサイトを運営する際には必要。
	31	サブドメインの有無と種類数	共用サーバーの場合は独自ドメインが使えないことも多い。サブドメインは豊富な種類から選べた方がいい。

表B: 機能を確認する(オプションで提供している事業者も多いですべて金額も要確認)

種類	項目	
サーバー全般	1	サーバーOSとスペックの詳細な情報の有無
	2	ウェブとメールが1台のサーバーか別か
	3	ディスク容量追加の可否
	4	アクセス制限の可否
	5	不正アクセス監視の有無
	6	FTP利用の可否
	7	Telnet利用の可否
	8	ファイル管理ツールの有無
	9	ファイル管理ツールの言語
	10	アクセスログの提供の有無と期間
	11	アクセスログを分析するツールの有無
	12	生アクセスログの提供の有無
	13	バックアップの有無と頻度
	14	バックアップリストアーの有無と料金
	15	商用利用の可否
	16	アダルトサイトの可否
	17	ストリーミング配信の可否
	18	URL転送サービスの有無
アプリケーション	19	独自CGI(Perl)利用の可否と制限内容
	20	レンタルCGI利用の可否と制限内容
	21	PHP利用の可否

種類	項目	
	22	SSI利用の可否
	23	Perl、PHPなどソフトウェアのバージョンの公開の有無
	24	データベースとウェブサーバーが分離しているか否か
	25	MySQL利用の可否
	26	PostgreSQL利用の可否
	27	マイクロソフトアクセス利用の可否
	28	File Maker利用の可否
	29	SQL Server利用の可否
	30	Inter Base利用の可否
	31	SSL利用の可否
	メール	32
33		メールの自動返信機能の有無
34		メールマガジン機能の有無
35		メールマガジン発行機能の有無
36		ウェブメール機能の有無
37		SPAMメールフィルターの有無
38		ウイルススキャンの有無
その他	39	ショッピングサイト構築ツールの有無
	40	ショッピングカート機能の有無
	41	ショッピングサイト決済手段の提供の有無
	42	グループウェア利用の可否

* 表A、表Bの項目はインターネットマガジンのウェブサイトに掲載。

<http://internet.impress.co.jp/im/200311rs/>



「安すぎて心配」は企業情報とサポートでカバー 月1,000円以下でも安心の サーバー選び



CGI利用や短いURLでプロバイダーより使える
ウェブサイトはまずサーバー容量をチェック!

レンタルサーバーの一番の用途は、ウェブサイトの公開だ。そこで、プロバイダーや無料ホームページスペースを利用する場合に比べてどんなメリットがあるのだろう。

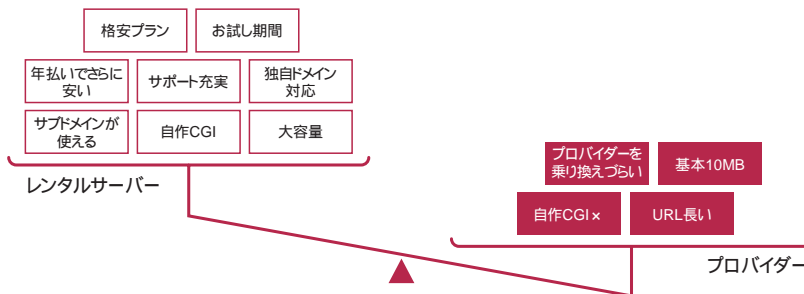
プロバイダーが提供するホームページスペースは、10MB程度の容量が主流だ。ダイヤルアップで接続していたときは、ホームページは軽くてサクサク動くページが好まれていたため、10MBでも十分足りていた。けれども、ブロードバンドによってアクセスが苦にならなくなり、見栄えのいいページを作ると画像を増やせば10MBはあっという間にいっぱいになってしまう。追加料金を支払えば容量を増やせるが、けっして安いものではない。しかも、多くのプロバイダーは自作のCGIのインストールを許可していない。

その点、レンタルサーバーは、デフォルトでも50MB以上の容量を用意しているところが多い。自作CGIへの対応は一般的だ。また、独自ドメイン名の対応やサブドメイン名の提供(84ページ参照)それらのドメイン名を使ったメールアドレスやメーリングリストも利用できる。

レンタルサーバーを利用するメリットは大きいとはいえ、気になるのはその価格。調べてみると、月250円程度の「激安」レンタルサーバーも複数存在する。数年前は、「激安」と言われると不安な面が多かったが、現在ではユーザー数を確実に伸ばしているレンタルサーバーもある。この安さの秘訣は、多くの場合、他の専用サーバーを借りて、それを共用サーバーとして運用する「リセラー」であるためだ(詳細は次ページ)。

価格や機能のどちらの面から見ても、プロバイダーのホームページ容量を追加するよりレンタルサーバーを借りるのがおすすめだ。

》レンタルサーバーを使うメリット



》プロバイダーサービス付属のホームページ(一部コースは有料)

プロバイダー	基本容量	追加容量と月額追加料金	最大容量	自作CGI	SSI
@nifty	10MB	5MB / 200円(20MBまで) 10MB / 400円(20MB以上)	150MB		×
BIGLOBE	10MB	2MB / 80円(50MBまで) 10MB / 400円(50MB以上)	200MB		×
DION	5MB	20MBまで無料 1MB / 50円	100MB	×	×
OCN	10MB	5MB / 200円	200MB	×	×
ODN	5MB	-	-		×
Panasonic hi-ho	10MB	1MB / 500円	無制限		
So-net	10MB	5MB / 100円	50MB	×	×
Yahoo! BB(ジオプラス)	25MB	-	-	×	×
ぶらら	フリーチケット対応	5MB / 300円	50MB		×

》無料ホームページスペース(広告表示あり)

サービス名	基本容量	広告表示なしの有料サービス	自作CGI	SSI
Yahoo! ジオシティーズ	12MB	月500円で25MB	×	×
インフォニーク isweb	50MB	月500円で300MB		

》月額1,000円以下(50MB)の主なサブドメイン型共用レンタルサーバー

サービス名	サーバー容量	初期費用	1か月契約	3か月契約	6か月契約	年額費用
AHOPE(標準)	50MB	0円	-	-	4,200円	8,400円
BiG-NET(レンタルサーバー会員)	100MB	0円	1,000円	-	-	9,800円
CsideNet(サブドメイン型レンタルサーバーサービス)	100MB	3か月契約3,000円、 1年契約1,500円	-	2,250円	-	8,400円
ロリポップ	200MB	3,000円(女性と学生、サーバー引越しの人は1,500円)	300円	900円	1,500円	3,000円
バルフェネット(スモール)	100MB	3か月契約2,000円、6か月契約1,500円、1年契約1,000円	-	初回のみ900円	1,800円	3,000円
ショートスタイル(スモールプラン)	50MB	2,000円	-	900円	1,500円	3,000円
SOHOSERVER(SOHO-A)	100MB	2,800円、1年契約1,400円	-	-	4,500円	7,200円
SRSさくらインターネット(さくらウェブ パーソナルタイプ1)	150MB	0円	1,000円	-	-	10,000円
Web Internet Service(スーパーエコノミー)	50MB	500円	850円	2,250円	4,050円	7,200円
愉快堂出版インターネットサービス(Post.toネットWeb)	60MB	5,000円	1,200円	-	6,600円	12,000円



安心して使える評価基準

情報をしっかり公開していることが大前提

検索サイトで、「激安+レンタルサーバー」などと検索すると、かなりの数がヒットする。その中から安心して利用できるレンタルサーバーを探すにはどうしたらいいか。

やはり、運営会社の概要やサーバーのスペック、機能を明確に公開しているところを選びたい。会社の概要は、所在地を明記し、電話でのサポートを受けていないとしても会社概要には電話番号まで書かれてあるといい。問い合わせ先がわからないのは、問題外だ。これらの項目は、80ページでも触れているように、レンタルサーバー業者の大小にかかわらず重要だが、激安レンタルサーバーでは特にウェブサイトで明記されていない場合が多いため、最初にチェックすべき項目だ。

激安感だけを前面に出しているのではなく、機能面についてもわかりやすく解説し、サーバースペックやバックボーンなどを公表しているところを選ぶといい。「よくある質問」が丁寧に作られているととても参考になる。サブドメイン型であれば、そのドメイン名で検索し、どのようなホームページが公開されているかをチェックしてみるのもいいだろう。

激安レンタルサーバーの確認項目

- ・運営会社の事業内容
- ・運営会社の所在地、電話番号
- ・問い合わせ先
- ・サーバーの種類
- ・サーバーのスペック
- ・共用サーバーの場合の1サーバーあたりのユーザー数
- ・初期費用、月額(年額)費用、追加料金
- ・支払い方法と契約期間
- ・利用できる機能
- ・サーバー容量
- ・サポート対応時間
- など

転送量制限と追加料金に注意!

レンタルサーバーを借りてホームページを作った場合、そのページにアクセスがあるたびに、サーバーからアクセスした人のパソコンへホームページのデータが転送される。これを転送量と呼ぶ。ホームページの情報を更新したり、画像をアップロードしたりすることも、この転送量に含まれる。

レンタルサーバーのスペックを見ると、「転送量無制限」と書かれていることがあり、この表記があればいくらかのアクセスがあっても特に気にする必要はないことになる。しかし、共用サーバーでは、同じサーバーを利用するユーザーのホームページが人気サイトであれば、

サーバー1台あたりの転送量が多くなる。特に「激安」の場合はサーバー1台あたりのユーザー数が多いと考えられ、転送量が多いとサーバーへの負荷も大きくなる。これは、同じサーバーの利用者からすると「サーバーが重い」「ページの表示が遅い」原因になる。

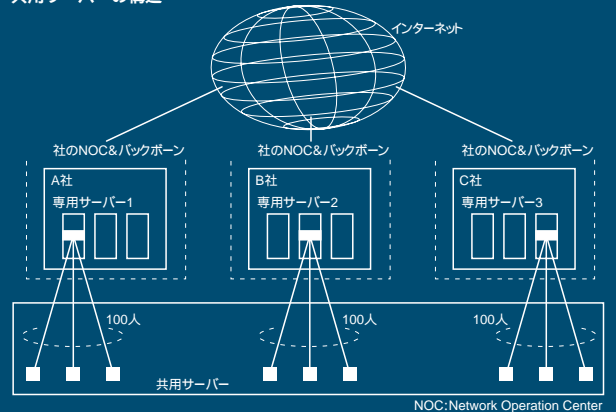
転送量の制限を設けているレンタルサーバーはその点で安心だ。反対に「転送量無制限」でも、あまりにも桁はずれなアクセスがあると警告を出して専用サーバーへの移行を促すという。なかには一定以上の転送量が発生した場合に追加料金を徴収するレンタルサーバーもあるので、事前に確認しておきたい。

共用サーバーだからこそ「激安」でも自分のサーバーの所在を知りたい

激安レンタルサーバーは、他社の専用サーバーを間借りして、それを共用サーバーとして提供しているリセラー型が多い。「サーバーがダウンした」場合、契約している激安レンタルサーバー業者にクレームを伝えても、実際はその大元にある専用サーバーのダウンが原因のことも。しかしそれは、ユーザーからはわかりにくい。どこの専用サーバーを利用しているかを知っていれば、その専用サーバー業者の評判を事前に調べたり、不具合が起きたときは専用サーバーのウェブサイトにも障害情報が載っていないかどうかを調べたりできる。しかし、どこの専用サーバーを使っているかは公開されていないことが多いため、どうしても知りたい場合は、問い合わせると教えてくれることもあるし、会社概要の「取引先」として掲載していることもある。自分で調べたい場合は、共用サーバー業者から与えられたサーバーのホスト名やサブドメイン名から「IPドメインSEARCH」URLを使って検索するといいたいだろう。

URL http://www.mse.co.jp/ip_domain/

共用サーバーの構造



A社の専用サーバー(120GB)が月額19,000円だとすると、このサーバーを100人で共用すれば、1人あたり190円の計算になる。激安レンタルサーバーの基本はこのような仕組みだ。なかにはCsideNetのように自前のサーバーを設置して管理まで自社で行っているところもある。



サーバーは落ちてあたりまえ サポート体制とFAQページの充実がカギ

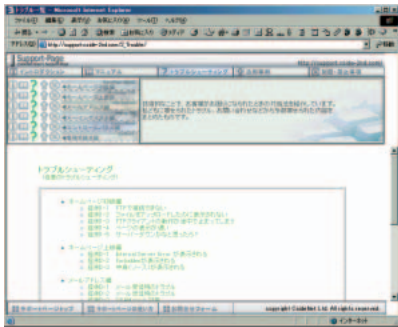
サーバーは落ちない(ダウンしない)にこだわったことはない。できる限り「落ちない」安定性を求めるなら、専用サーバーを契約すべきだ。しかし、そうはいつでも絶対に落ちないという確約はなく、サーバーは「落ちてあたりまえ」と思ったほうがいい。問題なのは、落ちたあとの対処だ。できるだけ早く復旧をし、問い合わせに迅速に対応してくれるレンタルサーバー業者であれば、ユーザーの不安は解消される。このため、激安レンタルサーバーでは、特にサポートの充実を選択のポイントに挙げたい。

サポートの方法はさまざまで、基本はメール対応。やはり「24時間以内に返答」というように、返答のタイミングを明確に提示しているところは安心だ。

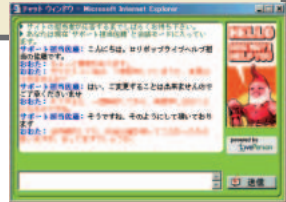
CsideNetは、サポート窓口を一本化する「担当者制」をとっている。代表取締役の小尾英樹氏によると、「担当者名を伝えることで、メールの先に人がいる安心感をユーザ

ーに持ってもらえる」という。各ユーザーの特性も把握しやすいため、技術レベルに応じた返答をもらえるのがメリットだ。

なかには、7日から10日の試用期間を設けているものもあるので、その期間中にわざと答えにくい質問を投げて、サポートの対応を見るのもいいかもしれない。



CsideNetのサポートページ。ホームページ作成やメールアドレスなど、設定方法のマニュアルからトラブルシューティング、活用事例まで用意されている。
URL <http://www.cside.jp/>



ロリポップはチャットでサポートに応じる「ライブヘルプ」を用意。平日は10時から23時まで、土日は10時から19時まで対応し、入会前でも利用できる。

URL <http://lolipop.jp/>



AHOPEの障害情報ページ。障害情報は、できるだけ過去の分も参照できるほうが望ましい。

URL <http://www13.org1.com/>



個人でできるだけ安く使いたい人向け 短くてわかりやすいサブドメイン名を選択

レンタルサーバーのメリットは、独自ドメイン名で自分のホームページのURLを短くできることだ。しかし、独自ドメイン名だと、ドメイン名の取得費用や管理費用がかかり、レンタルサーバーを借りるハードルにもなりかねない。

激安レンタルサーバーでは、独自ドメイン名を取るほどでもなく、かといって、プロバイダーが提供するホームページのURLでは「」が入って長くなるのは嫌だというユーザー向けに、サブドメイン型のURLを提供している。しかも、数種類の中から好みのサブドメイン名を利用できるので、十分にオリジナリティーのあるURLを使えるのがうれしい。

個人の趣味のホームページユーザーで、あまりお金をかけたくない人や、一時的に

》プロバイダーが提供するURL

<http://homepage?.nifty.com/xxxx/>
?は指定の数字、xxxxxは半角英数20文字以内の好きな文字列

<http://www?.biglobe.ne.jp/~xxx/>
??は指定の英数字、xxxは好きな文字列

<http://www???.upp.so-net.ne.jp/xxxxx/>
???は指定の数字、xxxxxは好きな文字列

使いたい人は、このようなサブドメイン型のレンタルサーバーを使うといいだろう。

ただし、レンタルサーバーを引っ越したい場合には、そのサブドメイン名は移行できないため、将来的に長く使いたいのであれば、独自ドメイン名にするか、あるいはホームページのURL転送サービスを利用するのがベストだ。

》サブドメイン型のURL

- ・ロリポップ(40種類)
<http://xxx.lolipop.jp/>
<http://xxx.chu.jp/>
<http://xxx.moo.jp/> など
- ・CsideNet(16種類)
<http://xxx.or.tv/>
<http://xxx.if.tv/>
<http://xxx.gotohp.jp/> など
- ・愉快堂出版インターネットサービス(21種類)
<http://xxx.pos.to/>
<http://xxx.cha.to/>
<http://xxx.nihon.to/> など

xxxは3文字から16文字の半角英数の好きな文字列



<こんな人におすすめ!>

- ・あまりお金をかけたくない
- ・URLは短いほうがいい
- ・URLとメールアドレスのドメイン名は同じほうがいい
- ・わかりやすいURLを使いたい

初心者でも安心・簡単 使いやすいコントロールパネルは必須

激安レンタルサーバーであっても、機能は申し分ない。たとえば、自作のCGIやSSHに対応しているのは一般的だし、メールアドレスももらえる。メールアドレスが複数作れたり、また最近ではどこからでも閲覧できるウェブメールを用意していたりすることもある。

大手のレンタルサーバーに見劣りしない機能を提供するほか、最近の傾向として初心者の利用も増えていることから、「コントロールパネル」が使いやすく改良されている。

コントロールパネルでできることは、レンタルサーバーが提供する機能によって大きく異なる。多くは、契約期限を含めた契約内容やサーバー容量、転送量の利用度合いがわかるようになっている。また、転送メールに対応していれば、転送先アドレスの指定ができるし、メールアドレスを複数もらえるならば、自分でメールアドレスを複数作って知人に渡すこともできる。FTP機能を持たせたコントロールパネルであれば、FTPソフトが使えないユーザーでも簡単にホームページの更新ができる。

もちろん、これらのコントロールパネルに関して、試用期間を準備するレンタルサーバー業者であれば、その期間内に試せるので、納得いくまで使い倒すのも手だ。

》 激安でもあなどれない多機能性

- | | |
|--|---|
| <p>【一般的な機能とスペック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50MB以上のサーバー容量 ・メールアドレスの提供 ・メーリングリストの提供 ・メールの転送 ・自作CGI、SSH、PHPの利用 ・アクセスカウンターの提供 ・アクセス制限 ・コントロールパネルの提供 | <p>【オプション機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのセキュリティ対策 ・メールのセキュリティ対策 ・リアルオーディオ、ウィンドウズメディアの利用 ・アクセスログの取得、解析 |
|--|---|



CsideNetのコントロールパネルは、自社で開発したものの。サーバー情報の表示のほか、メールアドレス、メーリングリストの設定もできる。
URL <http://www.cside.jp/>



ロリポップのコントロールパネルにはFTP機能を用意。明るい配色で視覚的にもわかりやすい。
URL <http://lolipop.jp/>

激安だからこそとりあえず使うのもOK 支払い方法や契約期間は要確認

レンタルサーバーの利用開始は、オンラインで申し込んだ時点ですぐ使えるものもあれば、1、2日程度で使えるもの、銀行振込確認後に利用可能になるものなどさまざま。また、契約期間は1か月単位で申し込めるもの、最低3か月は利用しなければならぬもの、年間契約でさらに安くなるものなどがあり、まずは短い期間で契約して試してみるのもいい。支払い方法は、銀行振込やクレジット

カード支払い、コンビニエンスストアでの支払いなど、多種多様だ。法人契約OKのレンタルサーバーもある。契約期間や支払い方法は、最初の申し込みの期限が切れる際に、コントロールパネルから変更できるので、まずは気軽に申し込んで使ってみても変更の手間は最小限で済む。ただし、契約期間の途中で解約しても返金されないのがほとんどだ。



オリジナルCGIと負荷に注目 blog ツールやCGIを使う レンタルサーバーの選択法



“重い”を回避するには 転送量制限のあるサービスを必ず選択肢に

自作のCGIや最近ハヤリのblogをサクサク動かしたいと思っても、ISPから提供されるホームページサービスでは容量が少なかったり、そもそもCGIの設置が“不可”だったりもする。そこで、レンタルサーバーという選択肢が生まれるわけだが、CGIやblogツールをレンタルサーバーで動かす際に注意する点はかなり多岐にわたる。

まず、レンタルサーバーには前述のように専用型と共用型の2種類が存在する点に注意したい。専用型はサーバーを1台丸ごとレンタルするタイプで、サーバー運用のスキルがあればCGIの設置はもちろん、まるでハードを購入して自分で設置したサーバーマシンのように何でもできるのが魅力だ。一方、共用型は1つのサーバーマシンを数人でシェアするもので、数十～数百MBのウェブ容量を月額数千円という低コストで利用できるのが特徴だ。

専用型の場合、一般的に共用型より価格が高く、個人で日記サイトなどを公開する目的で借りるのは現実的ではない。おそらく大部分の人が、共用型を選ぶことになるだろうが、ここで重要なのは何人でサーバーをシェアするかということだ。たとえば、月額2,000円程度の共用サーバーだと、80人前後で1台のサーバーを共用するのが一般的だが、1台に多くのblogユーザーや動的サイトのユーザーなどが存在する場合、サーバーに負荷がかかり、快適なサービスを受けられない可能性もある。何人で共有しているかは公表している事業者が多いが、同じサーバー内にアクセスの多いblogサイトがあるかどうかは、まず公表してもらえない。事業者によっては、自社のレンタルサーバー上で動いているサイト

を紹介している場合もあるので、そのサイトにアクセスし、反応速度を見て快適度を推測するといった方法などで確認するしかないだろう。メールなどで事業者に共有人数を聞いたうえで、共用人数の少ない事業者を選ぶことで、負荷を避けるようにするというのがユーザーのとおりの手だ。

また、1か月あたりの転送量制限を設けているところもあるのでチェックしてみよう。転送量制限とは、事業者側でサイトへのアクセス回数を制限しているもので、たとえば月間15GBの制限があると、そのレンタルサーバーを使っているサイトは、アクセスしてきた人に、月の合計で15GB以上の情報を転送してはいけないことになり、ある程度サーバーの負荷をコントロールできるのだ。この制限で、同じサーバーマシン内に異常にアクセスの多いサイトが

あり、自分のサイトが快適に動かないという問題を解消できる。

もちろん、自分のサイトが非常に多くのアクセスを集める人気サイトならば、転送量オーバーでペナルティーを受ける可能性もあるので、転送量制限のないレンタルサーバーを選ばなければならない。ちなみに、どれくらいのアクセスがあると、事業者の提示する転送量制限を超えるのかは、以下の例から割り出してもらいたい。

画像を含んだ1ページ50KBのサイトを1人当たり平均3ページ閲覧すると仮定。
1日100人のアクセスがあるとすると、
50KB × 3ページ × 100人 × 30日 = 450MB(月間)

次からは、負荷以外にもCGIを使ったサイトや、blogサイトを運営するうえで注意すべきポイントを挙げていく。

》 レンタルサーバー選びのチェックポイント

	スタート	バリュー	ワイド	マスター	プレミアム
	START	VALUE	WIDE	MASTER	PREMIUM
料金					
設定費	¥8,000	¥8,000	¥8,000	¥10,000	¥10,000
月額	¥2,500	¥4,500	¥7,000	¥12,000	¥15,000
電子メールサービス					
POP3アカウント数	5	20	30	40	50
電子メール転送アドレス数	10	10	20	30	40
自動返信メール	10	20	20	30	40
基本スペック					
1ヶ月のデータ転送量(GB)	2.5	5	9	15	20
ディスク容量(MB)	50	200	400	650	800
グローバルIP	1	1	1	1	1
Webコントロールパネル					
FTPアカウント					
Microsoft FrontPageサポート					
アクセス制御					
ファイルマネージャ					
Anonymous FTP(管理可能)	-	-			
ラビッドサイトSSL	-	-			
独自SSL	-	-			

ラビッドサイトでは、どのコースで何人のユーザーが1台のサーバーを共有しているかは明記されていない。値段が高いほど共有する人数が少ないのが一般的だが、気になる人はメールなどで問い合わせよう。

転送量に制限があれば安定度が保証されるが、アクセスのきわめて多いサイトを作るとペナルティーを受けることがある。

ラビッドサイトの共用サーバープランにおけるスペックの一部。「1ヶ月のデータ転送量」の項目を見ると、値段が高いほどアクセス率の高いサイトを設置できることがわかる。

<http://www.rapidite.jp/service/shared/>

ポイント2 “機能が使えない”を回避
「CGIもOK」の本当の意味は要確認

もう1つレンタルサーバーを借りる際に重要なポイントは、業者が掲げている「CGI対応」という看板の中身だ。事業者によっては、メール送信フォームや、簡単な掲示板をあらかじめ用意しており、自作のCGI（オリジナルCGI）の運用に対応していないところもある。また、必ずしもすべての料金プランでオリジナルCGIに対応しているとは限らない。オリジナルCGIの運用をオプションサービスとして有料で提供しているところもあるので、その料金と相談してレンタルサーバーを選んでいこう。

また、あらかじめどんな言語で書かれたCGIを動かすのかを考慮すべきだ。現在、CGIでもっとも多く使われている言語はPerlだ。Perlにはいくつかのバージョンがあり、できるだけ最新のPerlをインストールしているサーバーを探したほうがいい。Perl以外の言語（たとえばRubyなど）でCGIを作成する場合は、サーバーが対応し

ているかどうかを確認しよう。掲示板に書き込まれたデータを自動的にメールで送信するような機能を組み込んだCGIを設置する場合は、Sendmailが使えるかどうかが重要になってくるので注意したい。「Xoops」のようなコミュニティサイト構築ツールを使いたい場合、PHPへの対応が必要となる。PHPもPerl同様にサーバーサイドの

スクリプト言語だが、柔軟な動的ウェブサイト構築するとすると、必須の言語だ。

ところで、プログラム言語以外にも、MTやXoopsを動作させるためにはPostgreSQLやMySQLといったデータベースが必要だ。データベースがオプション料金なしで利用可能なレンタルサーバーは少ないので注意が必要だ。

》 レンタルサーバー選びのチェックポイント

	スタート START	バリュー VALUE	ワイド WIDE	マスター MASTER	プレミアム PREMIUM
データベース					
MySQL3.22データベース	-	-	-		
Webインターフェイス	-	-	-		
CGI関連					
EZ-Moving Tool (簡単移転ツール)					
独自CGI	-				
Perl利用可能	-				
PHP利用可能	-				
Python利用可能	-				
Perlスクリプトチェッカ	-				

データベースが使えるのは上位コースのみとなっている。

Perl、PHP、Pythonが利用できるがバージョンなどは書いてないので、別途確認のメールを送ってみよう。

ラビッドサイトの共用サーバープランにおけるCGI関連のスペックの一部。

URL <http://www.rapidshare.jp/service/shared/>

ポイント3 CGIをどのディレクトリーに置けるか
自宅サーバーからの移行の際にはチェック

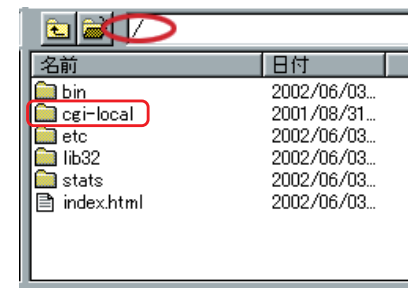
自宅のサーバーでblogサイトを立ち上げていたが、保守などが面倒なのでレンタルサーバーに乗り換えたい。そんなパワーユーザーは、CGIを利用できるディレクトリーの制限にも気を付けたい。多くの共用型のレンタルサーバーの場合、CGIは「cgi-binディレクトリー（cgi-localなど事業者によって呼び方はさまざま）のような特定のディレクトリーでしか使用できないなどの制限がある。これは、多く使われているhttpサーバー「Apache」の標準設定が、「cgi-bin」と名付けられたディレクトリーの下でのみCGIの実行を許可しているからだ。

ただし、任意のディレクトリーの下でCGIの実行したい場合もあるだろう。もし、専用サーバーや自宅サーバーならば、自分で

Apacheの設定を変えることで対応できるのだが、共用サーバーなどではそうはいかない。たとえば、あらゆるディレクトリーでCGIが使用できるように設定した環境から、cgi-binディレクトリーでしか使用できないサービスに移行してしまったら、使用しているCGIファイルやフォームのHTMLを1つ1つ書き換えなければならなくなる。この面倒を避けるためにも、複雑なCGIを実行する際は、任意のディレクトリーでCGIを動かせるサービスをあらかじめ探しておこう。

気を付けたいのは、CGIを任意のディレクトリーで動かすと、セキュリティ対策が難しくなる点。たとえば、CGIのファイルが覗かれてサイトのパスワードが流出したり、権限の設定を間違えてディレクトリーのフ

ァイルをすべて消されてしまうということが起こりうるのだ。よほどサーバーの保守や管理に自信があるユーザーでない限り、やはりCGIは指定されたディレクトリーで動かしたほうが無難だろう。



ラビッドサイトのディレクトリー構成。「cgi-local」にオリジナルCGIを設置する。



オリジナルCGI「OK」でも動かない？

blogが「高負荷のCGI」に当たるかどうかはサポートに確認

先に述べたように、CGIやblogなどコンテンツが動的に生成されるツールを使う場合、サーバーにかかる負荷にも気を配らなくてはならない。特に共用型レンタルサーバーの場合、CPUやメモリーをほかのユーザーとシェアしているため、blogサイトなどでは、ほかのユーザーに迷惑をかけてしまう可能性がある。たとえば、MTを使う場合は、負荷のかかる作業であるリビルド(再構築)を、一度にまとめて行わないようにするといった気遣いも必要だ。

事業者によっては、オリジナルCGIの設置を認めていても、「ただしチャット・高負荷のCGIは禁止しております」という但し書きをしているところもあり、MTのリビルドなどが「高負荷のCGI」として扱われる可能性もある。

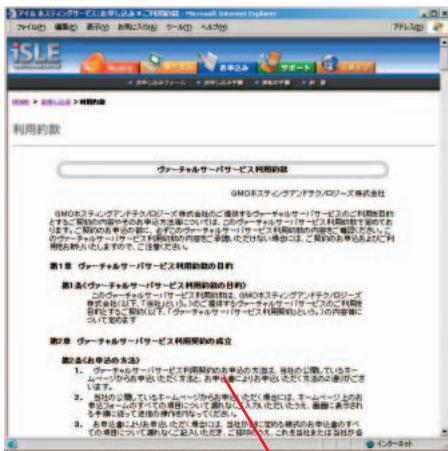
現在のところリビルドを必要とするMTや、PHP言語を使った動的なコンテンツなどが高負荷のCGIであると明記しているところは少ない。たとえばアイルの提供する「バーチャルサーバー」では、ただ単に「当社のサーバおよびその他の設備に過大な負荷を与えるような方法でヴァーチャルサーバーサービスを利用してはいけません」とのみ書いてあるだけで、この「過大な負荷を与えるような方法」にblogが含まれるのかわからない。サービスを申し込む前に規約や約款をよく読み、記述がなければ個人々人でサポートにメールを送って、自分が使いたいCGIが「高負荷」なものに当たるかどうか確認したほうがいだろう。

ちなみに、アイルにblogがこの「過大な負荷を与える方法」に含まれるかと聞いた

ところ、「運用形態によるので、一概にどのblogツールがダメとは言えない。こちらで負荷を監視しながら、高負荷をかけているユーザーには、いきなり使用を停止するのではなく、注意を促すような方法をとらせてもらっている」との答えだ。

このように、blogを含めた動的コンテンツを生成するツールによるサーバーの負荷に関しては、レンタルサーバー事業者も頭を悩ませているようで、「blogなどの動的コンテンツが増えていけば、一定以上の負荷がかかるCGIを動かしているユーザーに対して課金することを考えなくてはならないが、それがどのツールなのかというのは現段階では決められない」という感想を漏らす事業者もいるようだ。

》アイルの場合



認証システムの動作を妨害せ、またはその他の方法でサーバに不正にアクセスしたことによりお客様に生じた損害について、一切の責任を負いません。

4. お客様は、本条第1項において定めるパスワード等の適切な管理を欠いたために当社に損害が生じたとき、これを賠償する責任を負います。

第18条(過大な負荷を与えることの禁止)
お客様は、当社のサーバおよびその他の設備に過大な負荷を与えるような方法でヴァーチャルサーバサービスを利用してはなりません。

第19条(お客様と第三者との間における紛争)
お客様は、ヴァーチャルサーバサービスのご利用に際して第三者との間において生じた名誉毀損、プライバシーの侵害、ドメイン名を使用する権利の有無およびその他一切の紛争について、お客様自身の責任で誠実にこれを解決しなければなりません。

第20条(インターネットにおける慣習の遵守)
お客様は、スパムメールの発信の禁止等、インターネットの参加者間において確立している慣習を尊重しなければなりません。

アイルでは「過大な負荷を与える方法」を禁止事項としているが、それにblogが含まれるかどうかは、ケースバイケースだ。

URL <http://home.isle.ne.jp/service/shared/>

》ロリポップの場合



禁止事項

- チャットは一人様2つまでとし(コメント、匿名系、2000CHATなどの複数系チャットなども禁止)、チャットの自動ローテーション3分以上でお断り致します。
- チャット・電子メールなどの即時アクセス人数などによって画面書き込み機能に制限をかけるようお断りしております。
- CGIによる人対人対戦したゲーム(リストやメールマガジン/gendmailによる一斉送信機能)。
- 自動ロード連発したCGIゲーム
- 高負荷CGIゲーム
- CGIゲーム種別無差別設置
- CGIゲームIPアドレスベンチャー一斉連発ゲーム全てお断り
- 無常CGIメインとしたCGIゲーム
- 第三者のサイトから実行されるCGIアクセスラング、各種CGI、WebPageの運用など (WebPageの参加は可)
- CGIを乱立し、する行為(人対人対戦型)は設置するご遠慮
- TELNET CGIなどの高負荷をかける可能性のあるCGIの設置
- その他サーバに過大な負荷を与えるようなCGIや過度のCGIの使用
- その他などによる「イナリ実行ファイルのCGI

ロリポップのように「CGIゲーム」など、禁止事項を具体的に示しているサービスも存在する。

URL <http://lolipop.jp/>

ポイント5 「CGI」blog」だからこそ重要になる
ツールのインストールまでサポートしてくれる事業者をチョイス

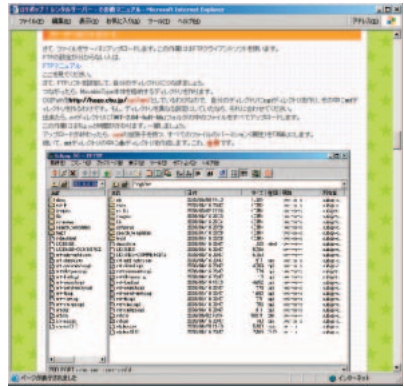
CGIやblogを設置、運用するためのレンタルサーバー選びとして、FAQやオンラインマニュアルの充実度も重要なチェックポイントだ。また、障害が起こったときの対応の素早さや情報公開の有無を確認することで快適なサービスかどうかを判断できる。

たとえば、低価格なレンタルサーバー「ロリポップ」では、MTの設置マニュアルを公開している。同社代表取締役の冨家一真氏によれば、「サービス開始時は1件1件、個別に導入サポートをしていましたが、ニーズが高いということでマニュアルを設置しました」と言い、ユーザーが簡単にかつ正確にMTを導入できるような、サポートを整えている。

ロリポップでは、全サーバーにMTの設

置で必須となる日本語を扱うためのモジュール「Jcode.pm」や、MySQLデータベースを導入。今でも問い合わせがあればMT導入のサポートや必要なモジュールのインストールなどの対応をしてくれるという。また、将来的にはMTを簡単にインストールできるツールの開発もありえるそうだ。

「blogのブームは確実に来ていますが、まだまだMTのような自分でインストールするのは敷居が高いでしょうね」とは冨家氏。特に「CGIなどの知識は少ないが、どうしてもblogサイトを作りたい」と思っている人は、障害時などのサポートは当然として、ロリポップのようなツールのインストールの部分までサポートしてくれるようなレンタルサーバーをチョイスするといいたいだろう。



ロリポップではMTのオンラインマニュアルを掲載。blogユーザーを意識したサポート体制を整えている。
 URL http://lolipop.jp/?mode=manual&state1=other&state2=movable

ポイント6 CGIの設定やインストールが面倒なら
すでにblogツールがインストールしてあるサーバーを選ぶ

どんなにサポートがあっても、やっぱりblogツールのインストールに自信がないと言う人は、あらかじめblogツールがインストールしてあるホスティング型blogサービスを利用するという手もある。

MTを提供しているSix Apartでは、MTをベースにしたレンタルサーバー型blogサービス「TypePad」を開始した(120ページ参照)。TypePadでは基本的なblog機能に加えて、フォトアルバムやレビュー機能、デザインテンプレートなどが充実していて、ほぼMTと同じようなblogを公開できる。

もちろん、日本語のblogサービスも存在する。ドリコムが提供している「マイプロフィール」だ。マイプロフィールは本来、自己紹介ウェブサイト構築ツールだったが、最近になってblog公開機能を追加した。利用料金は無料となっている。

そのほか「Xoops」のインストールなどを無料で行ってくれる「MYweb Japan」など

も存在しているので、これらを使えば、特にCGIの知識がなくても、blogやCGIで動くコミュニティサイトがレンタルサーバー上で構築できるのだ。



MTと同等の機能が、インストールなしで使えるTypePad。
 URL http://www.typepad.com/



申し込みの時点で「Xoops」のインストール済みのサーバーを借りられるMYwebJapan。
 URL http://www.myweb.ne.jp/



自己紹介サイト構築のためという、ちょっと変わったレンタルサーバー。blog機能を導入している。
 URL http://www.myprofile.ne.jp/



構築ツールから受注管理や24時間サポートまで オンラインストア構築の ための事前確認項目



初心者でも始められる

オンラインストア構築をパッケージ化したサーバーが旬

オンラインストアを開店する場合、買いたいものをピックアップするショッピングカートはどうするのか、クレジットカード決済はどうするのか、といった問題にぶつかる。そんな問題をもっと簡単に解決してくれるのが、オンラインストアの構築を専門にするレンタルサーバーだ。

Eストアでは、右のようなオンラインストアに必要なと思われるほとんどの機能をパッケージ化した構築ツールを用意している。なかでもサーバースペースまで含めた「サイトサーブ」が使いやすい。もっとも安価な

コース「サイトサーブ30」は、30MBのディスク容量を持ち、毎月3,500円で利用できる。

申し込み時の初期費用が1万9,000円と少々高い印象だが、実はサイトサーブはドメイン名の管理料が無料で、このドメイン名取得・管理料を初期費用に含めていると考えられる。なお、ITPARKレンタルサーバーも同様の仕組みを利用している。

オンラインストアを開く場合、楽天などのショッピングモールへの出店も考えられるが、出店料がかかるなどのデメリットがあり、まずはレンタルサーバーの利用がおすすめだ。

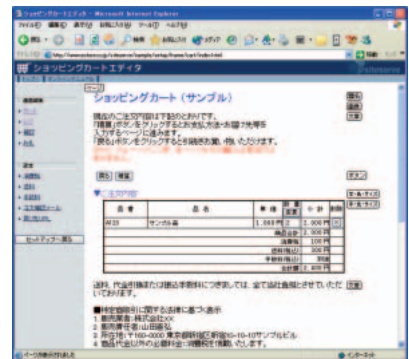
》パッケージ化されたオンラインストア構築ツール(サイトサーブの場合)

- ・SSL対応
- ・決済対応(クレジットカード・コンビニほか)
- ・カタログページ
- ・メール自動送信
- ・ショッピングカート
- ・受注管理
- ・アクセスレポート
- ・フォームファイル(アンケート etc. などのCGI(ユーザーCGI含む))
- ・.htaccess対応

など

》ショッピングモールへの登録とレンタルサーバーの違い

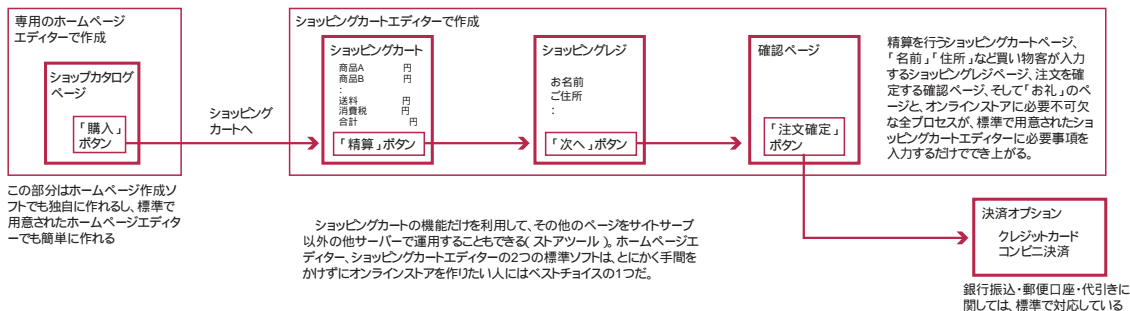
	ショッピングモール(楽天の場合)	レンタルサーバー(サイトサーブの場合)
初期費用	-	19,000円(独自ドメイン名可)
ランニングコスト	月5万円から	月3,500円から
アンケートフォームなど	x 他ドメイン名で独自に用意は可能	
クレジットカード・コンビニ決済	x	オプションのため別途費用
メール自動送信	その後、商品送付先などメールでの確認が必要になる	用意されたフォームで省力化が可能
セキュリティ	モールが代行	申し込み・決済時はSSL標準対応。アンケートフォームなどのSSLページ作成はオプション対応
集客力	モールの集客力は高い。ただし、ショップへの集客に結びつけるにはさらに戦略が必要	独自に集客する必要あり。ただし、そのぶん、ショップのカラーを出しやすい
販売力	商品説明が難しく、そのため価格が安い、入手困難な商品、専門ショップであるなどわかりやすい!特色が販売力に結びつく	店内戦略を構築しやすく、客への訴求力を自在に高められる
マーケティング戦略(対外戦略)	モール自体が知れわたっているため、独自戦略を持たなくてもいい!	リピーターに依存する率が高い場合も多く、CI(企業アイデンティティ)がより強く求められる
マーチャンダイジング戦略(店内戦略)	枠にはまった紋切り型の戦略になりやすい点に注意。さらに飛躍するためには、他ドメイン名で戦略展開するなどが必要になることも	ショップの姿勢をダイレクトに伝えられる。アクセスログのレポートも取れるので、詳細な戦略も立てられる



ショッピングカートエディターを使えば、左上の「画面編集」にある「カート」「レジ」「確認」「お礼」を編集するだけで、一連のショッピングに必要な流れを作れる。「消費税」「送料」「手数料」などの設定項目ももちろんある。

URL <http://www.estore.co.jp/>

》サイトサーブの仕組み: 商品選び・注文から決済まで



ポイント2 **オンラインストアに必ず用意される「ショッピングカート機能あり」の意味は要確認**

オンラインショッピングをしていて、誰にでも目に付くのがショッピングカート。買い物客が選んだ商品やその代金を記録して、精算するとき利用するものだ。

しかし、ショッピングカートは広い意味では商品や代金を記録するだけの機能ではない。決済機能との連携は万全か、SSL機能は提供されているかなどチェック項目は多い。これらの機能に対応したショッピングカートを提供しているのがアイルやCPIだ。アイルは、93ページで紹介する「ゼウス」と連携して、管理画面にゼウスから発行されるIDを入力するだけでクレジットカード決済に対応。SSL機能もフォーム入力まで含めて標準でサポートしている。

狭義のショッピングカート機能だけなら、多くのレンタルサーバーが提供しているが、他機能との連携がスムーズにできるかどうかは事前に調べておく必要がある。

アイルのStoreManager(Shopping cart CGI)を起動した画面。テキストや画像などを編集するだけで、ショッピングカート機能を使える。

URL <http://im.isle.jp/>



「ショッピングカート機能あり」の種類

ショッピングカート CGIのみ提供
 ・安価にカートが利用できる
 ・他機能との連携が難しいことも...

たとえば、クレジットカード決済との連携という面で言うと、カード会社が用意したhtmlタグを挿入すれば連携が可能なのだが、初心者には難しいものになる。

カート CGI、決済、受注管理まですべて提供
 ・決済との連携を簡単にしている
 ・受注管理も容易にできる

ショッピングカートから決済・受注管理まで、一連のオンラインストアの流れを容易に構築できる。たとえば、アイルが提携しているクレジットカード決済サービス会社ゼウスをアイル経由で利用した場合、ゼウスから発行されたIDをアイルの管理画面に入力するだけで、いたって簡単な作業だ。

StoreManagerで作られた「京都 西陣刺繍館」のショッピングサイト。

URL <http://www.trust-kg.co.jp/shop1/>

ポイント3 **ウェブサイト公開の経験者なら手軽にできる「オンラインストア構築ソフト対応」を選択**

小規模なオンラインストアを作る場合、ランニングコストを最低限に抑え、もっとも安価に、しかし安心して利用できる方法があればベストだ。この場合、単体で販売されているオンラインストア構築ソフトとそれに対応するレンタルサーバーを利用するといだろう。

「通販開業X」は、小規模ストアに適した、ショッピングカートから決済や受注管理にまで対応したソフトウェアだ。右のように、このソフトウェアで動作確認が取れているレンタルサーバーを使えば、登録が可能な商品点数や設定方法が「通販開業X」のウェブサイトで公開されている。上記で触れたアイルでも「ヴァーチャルサーバ ウルトラプラン」で標準対応だ。今までウェブサイトを開発した経験があり、FTPソフトなどを利用したこ

とがある人なら、問題なく使えるだろう。

趣味や副業的にオンラインストアを立ち上げる場合など、ソフトウェアを使えば金銭的な負担を少なくして高機能なストア構築ができる。ただ、やはりレンタルサーバーをSSL対応にしたほうがいいなど、サイトサーバやアイルなどのあらかじめオンラインストア構築ツールが用意されたレンタルサーバーを利用した場合と比べるとページの作成以外の部分で若干手間がかかるかもしれない。

通販開業X(インクリメントP)
 標準価格：19,800円
 URL <http://www.incrementp.co.jp/>
 受注管理、顧客管理、アップロード機能などを提供し、専門知識がなくてもオンラインストアを構築できる。クレジットカード決済、コンビニ決済、郵便振替、銀行振込による売上代金の収納代行を行うサービス「iPCOSS」と連携して使うと便利。



「通販開業X」の作成例。

対応レンタルサーバー
 アイル:ヴァーチャルサーバ「ウルトラプラン」プライベートサーバプラン全プラン
 ラビッドサイト:バーチャルプライベートサーバ「スタンダード」以上、コバルトサーバ全プラン
 netgroove:「スタンダードプランA」「スタンダードプランB」
 BIG-server.com:「オーダーメイドコース(専用サーバ)」「WebARENA:「suite」
 デスクウイング:「Type1」「Type2」



売りに大きく影響する 受注管理とアクセスログ解析は重要

レンタルサーバーを選ぶ場合、受注管理機能やアクセスログ解析機能があるほうがいい。受注管理機能は、ストア経営において省力化・効率化の強力な武器になる。購入された商品の発送・入金などの手続きがどこまで行われたのかを一括管理できるし、納品書などの印刷に対応するものもある。

一方、アクセスログ解析の機能を持つサーバーであれば、どのような検索キーワードで飛んできたのか、また、各ページをどのくらいの時間をかけて閲覧していたのかといったことが詳細にわかる。

たとえば、閲覧時間の短いページをより長く閲覧してもらうように努力する、検索キーワードを広告や宣伝に使うなど、重要な情報がアクセスログに隠されている。

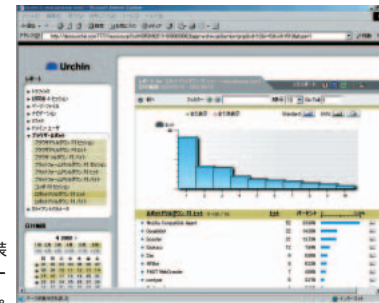


サイトサーブの受注台帳。決済代行サービスを利用した受注を「決済依頼」とすると、回収した代金はビリングプラス口座 サイトサーブ加入者個別の口座へ入金される。納品書は編集・印刷できる。

アイルの「ヴァーチャルサーバウルトラプラン」で標準装備する商用ログ解析ツール「アーチン」も、クリックスルーやページビューの長さなどを高精度でレポート表示する。



サイトサーブのアクセスレポート画面。月間・週間・日時について、アクセスページ、来訪者、来訪元経路、検索キーワードなどのランキングや期間傾向などのアクセスレポートがある。アクセスレポートはメールでも受け取れ、CSV形式で吐き出せばエクセルなどでも利用できる。



オンラインストアは24時間営業があたりまえ。このため、レンタルサーバー業者のサポート体制が重要になる。

Eストアが運営するサイトサーブでは、原則24時間対応しているし、電話サポートも行っている。もちろん、いずれも無料だ。アイルも同様。なかには、時間の制限や時間外対応は有料になる場合があるため、契



「いつでも買える」ために 24時間・無料サポート体制が肝心

約前に確認しておきたい。

いくら簡単にオンラインストアを構築できると言っても、レンタルサーバーを運用するわけだから、わからないことも多々あるだろう。もしかすると購入手続きを途中で中

やっていた買い物客が不安になって連絡してくるかもしれない。そんなとき、深夜だから翌朝まで待たなければならぬとなると、信用にも傷がつく。万が一のときの早急な対応が重要になる。



デジタルコンテンツの販売にも対応した サーバー容量や決済方式をチェック

デジタルコンテンツを販売したい場合、まず一般的なこととして、コンテンツ自体を保存しておくサーバー容量やサーバーの転送速度は十分かどうか、転送量制限はあるかといった点をチェックしよう。

また、レンタルサーバーが用意するオンラインストア構築ツールは、デジタルコンテンツに対応していないことが多い。デジタルコンテンツの販売は、ダウンロードさえできればいいというケースも多々あるが、構築

ツールを使わないと決済機能を利用するときに手でタグを挿入しなければならず、HTMLタグを直接触りたくない人はあらかじめ構築ツールやソフトの提供会社に相談したほうがいい。

本格的に営業する場合に気になるのは、クレジットカード決済を利用したときの自動返信で、CGIを通せるかどうかだろう。デジタルコンテンツ販売では、商品は、コンテンツをダウンロードするためのIDやパスワ

ードである場合も多い。IDやパスワードはCGIを使って自動生成できるため、クレジットカード決済でCGIを通せば、はるかに省力化できる。

》デジタルコンテンツ販売の注意点

- ・サーバー容量、転送速度は十分か？
- ・転送量制限はないか？
- ・カタログページやショッピングカートを編集・作成できるオンラインストア構築ツールがデジタルコンテンツに対応しているか？
- ・クレジットカード決済会社が提供するCGIタグの挿入は簡単か？
- ・クレジットカード決済でCGIを通せるか？



セキュリティ対策は基本中の基本 個人情報を守るSSL暗号化は必須

オンラインストアを運営する場合に、もっとも重要なのはセキュリティ対策だ。特に個人情報保護法が施行され、注目度が増している。

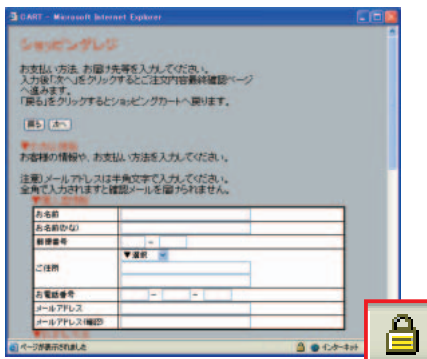
レンタルサーバーの対応を見てみると、「SSL対応」と書かれていても、その内容はさまざま。レンタルサーバー業者が用意してサーバー利用者が共同で使うSSLの場合は、ショッピングカート機能に付随して、手軽に使えるものが多い。しかし、ショッピングカートとは離れて、アンケートフォームなどで買い物客が入力する名前や住所などの個人情報がSSLで守られていないことがある。この場面でのSSL暗号化機能は、オプションで提供されることが多い。一概に「SSL対応」と書かれていても、どのレベルでの対応なのかは確認する必要がある。

レンタルサーバー業者が、「https://」と表示される共用のSSLを提供している場合は、URLをhttps://で始まるアドレスにするだけでSSL対応になることもあるようだ。このような場合は、アンケートフォーム

ページも簡単にSSL対応にできる。

また、SSL認証サーバーを提供するベリサインやジオトラスト、セコムサポートなどと契約して独自のSSLを使う場合は、オプションであることが多いだけでなく、対応不可の場合もあるので注意したい。

顧客の個人情報を守るというのは、オンラインストアを運営するうえでもっとも大事なことで、肝に銘じておこう。



サイトサーブのショッピングレジ画面。この画面は標準でSSL対応になっていて、買い物客が入力した個人情報も守られる。一方、別途アンケートなどのフォーム入力ページを作成する場合は、オプションのSSLサーバー(月2,000円)を利用する必要がある。

》オンラインストアにおけるセキュリティ対策

入力画面

ショッピングカート機能などで、買い物客が入力した個人情報などをSSL対応にすることは非常に重要。一般的にクレジットカード決済機能にはSSL機能は付いていることが多いが、入力画面に対するSSL対応は忘れがちになるので注意したい。

アンケートフォーム

アンケートフォームも入力画面と同様に、できればSSL対応にしておきたい。個人情報に対する姿勢は信頼感醸成の基本だ。

メールのウイルス除去

ウイルスを受け取ってしまった場合の対応ももちろんだが、ショップでは多くの顧客のメールアドレスを扱うもの。ショップがウイルス発信源になってしまうこともありえるのだ。注意深いショップでは、運用するPCにウイルス対策ソフトをインストールするだけでなく、レンタルサーバーが提供するウイルス除去サービスを併用していることも少なくない。



銀行振込・郵便振替を前提に クレジットカード決済への対応も考慮

小規模なオンラインストアを始めるにあたっては、まずはネット対応の銀行口座や郵貯振替の口座で始めるのもいい。在来銀行なら多くがJ-Debitに対応しているため使いやすい。郵貯振替も今年からインターネットに対応している。ネット銀行なら万全だ。たとえば、ジャパンネットバンクでは24時間対応だし、振り込まれたお金の確認もタイムラグなしで確認できる。

銀行振込や郵便振替に関しては、レンタルサーバー側の機能として提供しているわけではなく、自分で口座を準備しなければならない。ただ、銀行振込や郵便振替を案内する定形フォーマットを構築ツールに用意

していることがある。

ストア規模が大きくなり顧客からの要望が強くなってきたら、クレジットカード決済やコンビニ決済の追加を考えるといいだろう。これらの決済を利用したい場合は、各決済サービスを提供する(代行する)会社に申し込みの申請を行う必要があり、レンタルサーバーによってはこの作業を簡易化できる。アイルやCPIは、15社のクレジットカード会社に対応するゼウス決済サービスと連携し、初期費用が無料になるなどの特典を用意している。また、ASP i-doが提供するレンタルサーバーでは、コンビニ決済のデジタルチェックや佐川急便のeコレクトにも対応している。

》ゼウス決済サービスと連携するレンタルサーバー

- ASP i-do
[URL http://www.i-do.ne.jp/](http://www.i-do.ne.jp/)
- CPI
[URL http://www.cpi.ad.jp/](http://www.cpi.ad.jp/)
- Kagoya Internet Routing
[URL http://www.kagoya.net/](http://www.kagoya.net/)
- Willnet Internet Service
[URL http://www.willnet.ad.jp/](http://www.willnet.ad.jp/)
- アイル
[URL http://im.isle.jp/](http://im.isle.jp/)
- ウェブスリー・ラボ
[URL http://www.w3lab.net/](http://www.w3lab.net/)
- トリトンネット
[URL http://www.toriton.net/](http://www.toriton.net/)
- モールサービス
[URL http://www.mallservice.co.jp/](http://www.mallservice.co.jp/)



メールやウェブを効率的に運用したい中小企業必読 ビジネスで使うレンタル サーバー導入のポイント



“ 簡単操作 ” “ セキュリティ ” “ サポート ” が重要

ビジネスで使うからこそレンタルサーバーを選ぶ理由

実際にサーバーマシンを社内に置いてみると、いろいろと面倒なことが起きてくる。まず、サーバーマシンは24時間稼働させなければいけないので、電気を使うしファンがうるさい。また、停電やちょっとしたトラブル、データのバックアップも全部自分の責任でやらなければならない。技術に明るいスタッフがいたら何とかなると考えがちだが、サーバーの管理者が突然会社を辞めることだってある。対してレンタルサーバーなら、セキュリティ管理なども、契約の内容によるがある程度事業者が面倒を見てくれる。しかも、月額数千円で多くの機能が提供されるから、コストメリットも大。中小の事業者が仕事で使うならレンタルサーバーという選択は常識と言える。

では、選択のポイントはどこにあるだろうか。以下のページでは、企業と顧客の間のインフラとなるメール、企業の顔となるウェブといった切り分けでレンタルサーバーを選ぶ際のポイントを提示していきたい。

まず、徹底的に重視したいのはレンタルサーバーの使い勝手の良さだ。使いたい機能や使いたくなる機能が、サーバー管理などしたことがない人でも簡単に設定できるかどうか、この点がビジネスで選ぶときにもっとも大事にしたいポイントだ。この点を確認するためには、無料試用期間を設けているところや、管理画面を詳しく解説したページを持っているサービスが選びやすい。

2つ目には、メールのセキュリティである。サーバー側でメールのウイルスチェックや暗号化によるセキュリティを確保できるサービスがおすすめだ。独自ドメイン名を使っている環境で、メールを経由して社内のネットワークにウイルスの侵入を許してしまうと、そのドメイン名のアドレスでスパムが大量に送られたり、ほかのサーバーを攻撃してしまったりする。ドメイン名から会社名などが簡単にわかってしまうので、一気に会社の信用を落とすことになる。

3つ目には、バックアップや保守のサービスの充実したものを選びたい。バックアップは手間のかかる作業なので、できれば事業者任せたい。もちろん、サポートのいい会社を選ぶというのも大事だ。少なくとも、その会社のサポートページがどの程度わかりやすく、充実しているかをチェックしておいたほうが良いだろう。

選択に迷うポイントの1つが事業者のバックボーンや機能の拡張性だ。確かに機能が充実して、いろいろなオプション機能が追加できる場所を選んでおくのは無難だが、レンタルサーバーは乗り換えも可能。あえて将来の必要に対してお金をかけることはないと言える。回線幅についても同様だ。SOHOビジネスなら、10Gbpsもの太いバックボーンは必要ないし、前出のようにバックボーンが太くてもサーバーのスループットがよいとは限らない。ビジネスだからこそ、必要最低限の機能を吟味し、機能とコストのバランスのいい選択をしたい。



ファーストサーバーのコントロールパネル「ファーストサーバコンフィギュレータ」の画面。サーバーのすべての機能がここから設定、変更できる。

<http://www.firstserver.ne.jp/>

》レンタルサーバーにほしい機能のリスト

機能ジャンル	機能	欲しい度
セキュリティ	電子メール(受信)APOPなどの暗号化	= 絶対欲しい、
	電子メール(送信)の認証	
	電子メール(送信)の暗号化	
メールサービス	ウイルスメールチェック	= 欲しい、
	メーリングリスト	
	メールマガジン	
	メール転送	
ウェブ	SPAM対策	= あれば使いたい
	ウェブメール	
	アクセスカウンター	
	掲示板	
	アクセス制限	
その他	ログ解析	= あれば使いたい
	PHP+DB	
	CGI	
	グループウェア	
	バックアップ	

顧客と企業をつなぐインフラとなる電子メールはセキュリティに配慮されていることが必須だ。また、外出先でもメールを受信できるように転送機能やウェブメールなどに対応していることも望ましい。

企業の顔となるウェブにいろいろな機能をつけたいなら、CGIなどに対応していることが望ましい。そのほかスタッフが使うイントラサイトとして、グループウェアなどが備わっている事業者を選ぶ手もある。

ポイント2 ビジネスには欠かせない **メールのセキュリティを確保する**

ウェブはもともと公開することを前提としたものなので、不正に侵入されて書き換えられるといったことを除けばセキュリティ上問題になることは少ない。レンタルサーバーの場合、不正アクセスを防止するのはレンタルサーバー会社の仕事なので、管理パスワードを厳重に管理する以外あまり気を使う必要はない。だが、メールに関しては危険が多い。サーバーを勝手に利用されてなりすましメールを送られたり、ウイルスに感染したりするといったことは利用者側で十分に考慮しておく必要がある。

そこでまずほしい機能がメール送信時のセキュリティ機能だ。POP before SMTP(POPサーバーでユーザーのメールアドレスとメールパスワードを確認してからメール送信を行う仕組み)を使ったメール送信時の認証の導入やSSLを使った認証と暗号化など、メール送信時のセキュリティ確保は必須と言えるだろう。同様に、メール受信時のセキュリティにも配慮されていることが望ましい。普段メールの受信

に使われるPOPはパスワードを平文のまま送るので、盗聴され悪用される危険性がある。事業者によってはパスワードを暗号化して受信するAPOPに対応しているところもあるので、さらにメールの安全性を向上させたい人はAPOP対応のレンタルサーバーを選ぼう。

また、スパム対策も重要だ。独自ドメイン名のメールアドレスはスパムが増えてきたからアドレスを変えるというわけにはいかないし、ウェブで公開している問い合わせメ

ールアドレスには実際に大量のスパムが届く。それらをレンタルサーバー事業者側で防ぐのがスパム対策機能だ。

もちろん、サーバーのクラッキングを防ぐためのレンタルサーバー事業者のさまざまな工夫や管理態勢も気になるポイントだ。利用者側に提供される機能ではないが、レンタルサーバーを選ぶときのポイントとしてレンタルサーバー会社のウェブなどでセキュリティ対策の内容を確認しておくことが大事だ。



ファーストサーバーのSPAMフィルター一覧画面。当該ホストのすべてのアドレスをまとめて登録できると効率的だ。

プラン名	ディスク容量	メールアカウント	メーリングリスト	ウイルスチェック
スタンダードV1	基本100MB	1	100人分×10個	あり
スタンダードV6		5		
スタンダードV10		10		
スタンダードV無制限		無制限		
スタンダード		無制限		なし

NTTスマートコネクットの smartSQUARE では、多くのサービスでウイルスチェックが標準となっていて、追加料金なしで利用可能だ。

URL <http://www.smartsquare.ne.jp/>

ポイント3 **だれでも管理できる簡単さが決めて** **コントロールパネルの使い勝手をチェック**

各社のレンタルサーバーでは設定や保守のためにコントロールパネルなどと呼ばれる設定画面が用意されている。ビジネスで使う場合には、必ずしもスキルの高いスタッフが常駐しているとは限らないので、だれでも使えるようになっているかどうかが重要だ。

アカウントの登録画面1つとってみても、そこに設定すべき内容が細かく解説されていないと戸惑ったり、誤った設定をしてしまったりするかもしれない。たとえば、ユーザーIDにどんな文字や記号が使えるか、パスワードにはどんな条件があるかなど、パワーユーザにとっては当たり前のことで

も、迷いの原因になる。また、アカウントやメーリングリストの登録では、一括して複数のメンバーが一気に登録できる仕組みが用意されているなど、ちょっとした機能が運営の際に便利なおことがある。

ただ、コントロールパネルの機能については使ってみないとわからないことが多く、事前にチェックできない。レンタルサーバー会社によっては、設定を体験できるデモページを用意していたり、詳細なマニュアルを提供していたりする場合があるので、それらを利用してコントロールパネルの使い勝手をチェックしておこう。



smartSQUAREのユーザーID設定画面。細かな説明があり、サーバー管理に不慣れな人でもわかりやすい。



安心して使うために

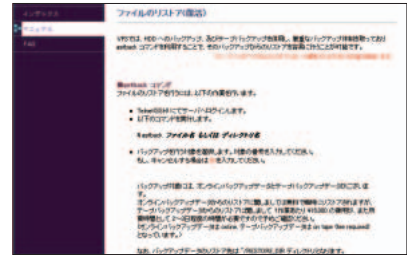
サーバーの保守・管理体制が充実したレンタルサーバーを選ぶ

セキュリティとともに気になるのが、サーバーの保守・管理だ。どんなに厳しく管理されたサーバーでも、ハードディスクの故障でデータが壊れてしまったり、ネットワークのトラブルが発生したりすることは十分に考えられる。

トラブルが発生したときに備えてどのような保守・管理体制がとられているのかも、大事なビジネスを行うサーバーとしては気になる点だ。また、誤って書き換えた

り、削除したりしてしまったファイルを復元できるとありがたい。

これらに対応するためには、少なくともサーバー側で自動的にバックアップが行われていることが必要だ。また、利用者が必要に応じてバックアップしたファイルを復元できるようになっているとさらに便利だ。これらの機能を目安に保守・管理体制が充実したレンタルサーバーを選ぶといいだろう。



ラピッドサイトのファイル復元方法を説明したページ。テープバックアップ(有料)とオンラインバックアップ(無料、ディスクに保存されている)が選択できる。テープには、週1回自動的にバックアップされている。

URL <http://www.rapidshare.jp/service/shared/>



移行の混乱を最小限に!

サーバーの乗り換え時はメールの移行に注意

レンタルサーバーを同じドメイン名で乗り換えるときには、特にメールの移行に注意したい。サーバーの設定を変更するには数時間かかるが、ここで切り替えのタイミングを間違えると、一時的に両方のメールサーバーにメールが届いてしまい、混乱を生じることになる。

また、会社のスタッフのメールソフト設定

も切り替わったときから新しいものに変更しなければならぬ。たとえば、メール受信のセキュリティ対応が変更になってAPOP(電子メールの受信に使われるパスワードを暗号化する認証方法)でなければ受信できなくなっていると、スタッフが自分でメールソフトを設定できない可能性もある。

したがって、サーバーの移行はできれば

週末に実行するのがいい。最悪の場合、メールやウェブが停止してしまったとしても、営業が始まるまでにリカバーできるからだ。ただし、レンタルサーバー会社のサポートが平日の日中だけということもあるので要注意だ。移行先の事業者とよく相談して移行のタイミングを確認しておく必要があるだろう。



売上げが増えた!

「さあ業務拡張だ」といったシチュエーションに対応できるかで事業者を決める

メールとウェブはビジネスの基本なので、レンタルサーバーを借りればあって当たり前だが、それらに加えて拡張できる機能があると、さらに業務を改善したり、より凝ったウェブページを提供したりすることが可能になる。

業務が拡大して、ウェブで大量の製品リストなどを提供することになれば、SQLなどのデータベースを使いたくなることもあるだろう。当然、PHPやPerlなどの言語を使ったCGIが使えればそれだけウェブでより柔軟なサービスが提供できる。ただし、データベースやCGIはそれを運用するス

キルを要求される点も考えておかなければならない。もし、それらに対応できるスタッフがいないのなら、あらかじめ掲示板やメールフォームなどのCGIが豊富に用意されているサービスを選択したい。

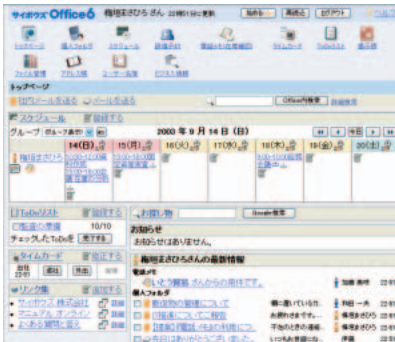
また、業務が拡張すれば、ウェブを使った取引をするためにも、SSLによる暗号通信への対応も必要になる。今は必要ないが、今後事業計画の中で必要な機能も備えているか、またそれらの機能は簡単に使えるのかなどをチェックするのも、ビジネスでレンタルサーバーを使う際に重要なポイントになってくる。



smart SQUAREの「SSL関連(CSR作成支援)」画面。SSL対応はオプションだが、簡単に秘密鍵の生成ができるので、わかりにくいコマンドを打ち込む必要がない。SSLの証明書に関しては、ペリサインなど代表的な認証サービス会社から発行する事業者、自社で証明書発行サービスを行う事業者など、対応はまちまち。



ポイント7 スタッフの情報共有をスムーズにする グループウェア機能を見据えてチョイス



ラビッドサイトにサイボウズOffice 6の試用版をインストールして、表示された初期画面。インストールはコマンドラインから行ったが、ラビッドサイトのサイトに詳しい説明があり、迷うところはない。

拡張機能の中でもう1つのポイントとなるのが、スタッフ間の情報共有の仕組みだ。簡単な方法としては、レンタルサーバーの機能の1つであるメーリングリストの利用が挙げられる。スタッフを全員登録した社内連絡のメーリングリストに加えて、プロジェクトごとにメーリングリストを作って管理する方法はもっともポピュラーな情報共有の方法だ。SOHOビジネスの場合、ビジネスパートナーや個人との協業も多いので、メーリングリストは有効な手段と言えるだろう。しかし、メーリングリストはあくまでもメールを使ったものであり、スタッフが本当にメールを読んだかどうかわからないし、情報の検索性はよくない。そこで便利なのが

グループウェアの利用だ。レンタルサーバー事業者の中には、サーバーの貸し出しと同時に、そこにインストールするグループウェアのサービスを展開している業者もある。これらのサービスを使って、ウェブを使った簡単なものからサイボウズをインストールした本格的なものまで、グループウェアが利用できれば、スタッフの予定のすり合わせや情報共有はいっそう緊密になる。また、携帯からグループウェアにアクセスできたり、ウェブメールが使えたりすれば、外出先でも必要な情報へのアクセスが可能になる。

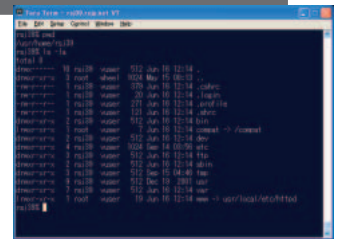
ただし、グループウェアを利用する場合は別途オプション料金などが必要になる。そのコストは考えておく必要がある。



ポイント8 VPSを使って 共有でも専用サーバーのように使えるサービスをチェック

レンタルサーバーの一部にはVPS(パーティシャルプライベートサーバー)という方式を採用している事業者が存在する。VPSは一般的なサーバー共有方法とは異なり、1台のサーバーにあたかも複数のサーバーがあるように見せる技術だ。サーバーにtelnetなどでログインすると、UNIXのディレクトリー構造がそのままホームディレクトリーに作られている。UNIXの

ほとんどのコマンドがそのまま利用でき、専用サーバー並みの使い勝手を共有サーバー並みの価格で実現しているのだ。この操作性を実現するために与えられるアカウントが「仮想root」と呼ばれるものだ。本物のroot権限ではないが、これを使ってサーバーを自由に設定できるようになるのはうれしい。スキルのあるユーザには使い応えのあるサービスだ。



ラビッドサイトで借りているサーバーにsshでログインしてホームディレクトリー一瞥を見たところ。UNIXのルートディレクトリーのようにになっている。



ポイント9 ブロードバンドもまとめて契約 全部コミコミでコスト節減のレンタルサーバーを選ぶ

レンタルサーバーをビジネスで利用する事業者は、企業のインフラにADSLなどのブロードバンド回線を利用することが多いだろう。また、外出先でのアクセスも考えると、ダイヤルアップの接続先もほしいところだ。プロバイダーなどが行っているレンタルサーバーのメニューにはブロードバンド回線とセットになっていたりと、組み合わせると

割引がある場合がある。請求もひとまとめでなるし、コスト削減に役買ってくれるだろう。ただし、サービス自体がまだそれほど多くないため、ウェブやメールが使いたいときには選択肢は狭まってしまう。トータルコスト重視の場合は、これらのサービスを選択肢に入れてみよう。



OCNの提供する「マイホスティング」サービスでは、ADSL接続などをセットにして低コストを実現している。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp